# 京城日報

廿八日夕刊

定價 本紙一部金三錢 一ヶ月金六拾五錢
廣告料 五號活字一行金七拾錢
發行兼編輯人 奥田直毅
印刷人 小川三之介
發行所 京城太平通一丁目 合名會社 京城日報社


[illegible]（南行）[illegible]（北行）[illegible]

## ◎四國銀行團と支那側

質問と抗議に對する挨拶

四國銀行團の質問と抗議とに對し支那側は猶正式回答を爲さざるも財政部は昨日其の書面を受取りたる事回答は追つて爲すべき事並に今回の借款は金融逼迫の際已むを得ず締結したる迄にて別意の存せざる事等を挨拶せり（北京特電）

## ◎獨軍の亞歷山利亞奪取

伯林來電＝獨逸軍はブカレスト市を距る四十七哩なるアレキサンドリアを奪取したりと（紐育電報）

## ◎羅軍アルト河線へ退却

ブカレスト來電に曰く羅馬尼軍はアルト河の線へ退却したる旨發表せらる（紐育電報）

## ◎羅國首都危殆に瀕す

獨勃兩軍アレキサンドリに進出し羅國首府ブカレスト危殆に瀕す（紐育電報）

## ◎對希臘最後の通牒

容れられずんば雅典占領か

アムステルダム來電＝聯合艦隊司令官フォルネ大將は希臘に對して最後の通牒を發し勤王軍砲兵隊の投降を要求し若し投降を肯んせずば十二月一日を以て適當の所置に出づるの已むを得ざるべき旨通告せり若し要求にして容れられずんばフォルネ大將は雅典を占領するならんと信ぜらる勤王軍は總計一萬人を算し完全に武裝せりと（倫敦電報）

## ◎希對勃獨交戰狀態

羅典來電＝曩に獨立を宣布したる希臘假政府は聯合國に於ては事實上の希臘政府と見做し居れるが同政府は勃牙利に對し宣戰を布告したるを以て希勃兩國は實際交戰狀態にあるものと認められ居れり尚ヴェネゼロス一派も獨逸潜航艇が希臘國民黨軍隊を搭載せる船舶に水雷襲擊を加へたるを以て獨逸に對し宣戰の布告を爲せり（倫敦電報）

## ◎露國專任外相任命

露國外務次官ネラトフ氏は專任外相に任命せられたり（紐育電報）

## ◎露國輸入禁止の影響

露國に於ける輸入禁止の爲め日露間の爲替停止し商取引亦全く杜絶せり（東京電報）

## ◎蔡鍔遺骸輸送

蔡鍔氏の遺骸は長崎支那商人の懇望に依り同地より送る事に決し軍艦海容と招商局汽船海安は二十七日上海發二十九日長崎に入港三十日遺骸を載せて上海に向け發航するに決定したり（長崎特電）

## ◎定例閣議開催

二十八日午前十時内閣に於て定例閣議を開催し寺内首相以下各相參集内外政務に付協議する所ありたり（東京電報）

## ◎首相法官招待

寺内首相は二十八日司法官會議列席中の司法官を招待し茶話會を催ふせり（東京電報）

## ◎小池參事官說

政務局長小池張造氏は白耳義公使たる可く内定し居りしも勅任一等官外務參事官たる可しとの說あり（東京電報）

## ◎石川縣選擧期

無効と確定せる石川縣の衆議院議員選擧は多分十二月二十日を以て行はるゝ事となるべく人氣頗る盛んにして立候補其他に關する浮說區々たり（東京電報）

## ◎横山氏再出馬

石川縣選擧無効確定に就き横山代議士は行懸り上再び出馬の模樣なり（金澤電報）

## ◎再選擧と憲政會

石川縣再選擧に付憲政會は二三名の減員を見る可しと一般より豫期さる（東京電報）

## ◎再選擧の興味

石川縣再選擧の結果は現内閣に對する議會解散後の民意如何を卜知するに足るとて朝野非常の興味を以て向ひつゝあり（東京電報）

## ◎饗宴第二日

二十八日立太子御儀御饗宴第二日に付正午十二時より宮中豐明殿に於て伯子男並に宮内高等官同待遇約五百名に對し賜饌あり（東京電報）

## ◎日本銀行券現狀

日本銀行に於ける限外發行高八百萬圓に達し兌換總額五億圓に近けり（東京電報）

## ◎殖民地貯金增加

各殖民地に於る貯金額は前年同期に比し三百萬圓を增加せり（東京電報）

## ◎華嚴瀧に水電

古川男爵家にては日光華嚴瀑布を利用し水力電氣事業を經營せんと計畫中なり（東京電報）

## ◎鐘紡配當三割

鐘淵紡績會社に於ける今期株主配當額は三割に決定せり（東京電報）

## ◎朝鮮棉業引繼

豫て計畫中なりし日本棉花會社の朝鮮棉業會社買收の件に付き二十八日日本綿花會社の中村重役と朝鮮綿業會社の浦上重役とは木浦に於て會見し事務、工場其他一切の引繼ぎを開始せり本月末迄には引繼きを了する筈なり（光州特電）

## ◎鑛業界益殷賑

內地の成功家にして近時朝鮮の鑛業に著目するもの多く投資の希望者相踵ぐの狀況なるより朝鮮の鑛業界は月を追ふて殷賑を呈しつゝあり、之を鑛業權の出願に徵するも本月は二十五日までの出願件數二百八十件に達し旺盛を極めし十月中の出願件數に比すれば殆ど伯仲の間に在るのみならず而かも續々出願の模樣あり、月末迄の件數は新規出願のみを以てするも優に三百を下らざる可く、殊に其の鑛種は最も多きは依然金鑛なれど黑鉛、鐵等之れに次いで多數を占むるは時節柄注目すべき現象なり

## ◎重石輸出取締影響

重石の輸出に關しては昨報の如く荷受人の誓約書を徵する事となり取締りの度一層嚴重となりしが其の影響に付某當事者の談を聞くに朝鮮としては最近直輸出を試むる者なきに付殆んど影響なしと云ふべく內地にても若干從來より取締りの手廢となりて其輸出を取扱ひつゝある商人は若干の手數を加ふるのみにて之れを輸出より見れば何等の障碍とならず從つて其の價格の如き變動を見ざるべしと

## ◎米鰊輸入皆無

明治卅八九年以來漸次輸入を增し最盛期には四十萬圓以上の額に達せし阿米利加鰊は歐洲戰亂以來頓に其の數を減じ昨年中の如きは十萬圓內外の輸入に過ぎざりしが本年に入りては船腹不足に伴ふ運賃不引合の結果輸入殆ど皆無の狀況となり從來の需要者は之れに代ふるに鹽石首魚其の他の鹽干魚を以てするに至れる爲め鮮內一般とも鹽干魚類は例年に比し一二割方の昂騰を告ぐるに至れりといふ兎に角阿米利加の鹽鰊の輸入杜絶は朝鮮水產界の爲め喜ぶ可き現象として當局は愁眉を開き居れり

## ◎農技官會同（第二日）

農業技術官會同第二日は前日に引き續き二十八日午前九時二十分より總督府第二會議室に開催、各道農業技師、勸業模範場、同場木浦、纛島支場技師等二十餘名は勿論、總督府よりは小原農商工部長官、中村技師、同部內各課長高等官技師等出席し小

## ◎定例長官會議

二十八日は定例長官會議日なるより山縣政務總監以下各部長官、局長、所屬官署の長等は午前十時より總督府第一會議室に參集通常政務に就き協議打合せの上正午散會したり

## ◎銀行券の漸增

朝鮮銀行券の發行高は其後益々增加の傾向を呈し十一月十九日より二十五日に至る總發行平均高は四千二百八十九萬五千圓に達し之れを昨年十二月中旬の最高發行高に比すれば八百餘萬圓の增加又前年同期に比すれば約千萬圓の增發となり居れり而して同期間の正貨保證準備發行平均を擧ぐれば左の如し

正貨準備 一四、五八四、二六〇
保證準備 二八、三一一、〇七三

## ◎高等土地調査委員

農商工部長官小原新三氏は二十二日附高等土地調査委員會委員を仰せ附けられたり

## ◎後任鮮銀理事

朝鮮銀行理事水越理助氏北海道拓殖銀行頭取に榮轉の結果同行理事には一名の缺員を生じたるが時恰も年末に際し殊に決算期に入れるを以て各方面共多忙なれば別に理事選任の臨時總會を開かず明年二月の定時株主總會迄空位の儘經過すべしと云ふ從つて今日其の候補者の如き全く不明なれど新理事を外部より採らずとすれば行內の首席司事は滿洲支店監督役大田三郎氏なりと

## ◎篤志者へ謝狀

在米國基督教宣教師ダブリュー・エー・スミス氏外宣教師一同は日獨戰役に際し日本赤十字社の救護事業を贊同し其の費用中に金五十圓を又た京畿道江華郡聖公會牧師父金宇逸氏は金二十七圓五十錢を何れも朝鮮本部を經て本社に寄贈したるが今回總裁殿下の台聞に達し花房社長より木杯一個を贈りて其の篤志を謝せり

## ◎小松氏表彰さる

愛國婦人會にては前總督府中樞院書記官長小松綠氏が多年同會朝鮮本部顧問として盡力したる功勞顯著なりしを認め今回同氏に對して二等有功章を贈り謝意を表せり

## ◎記念品寄贈

上林忠清南道長官の榮轉赴任に對し總督府並に京城內所屬官署の高等官等より成る記念品寄贈同志者募集の件は成績頗る良好にて醵金は遙かに豫定を超過せるより最初の計畫たりし鍍付腕卷金時計の外更に相當の物品を寄贈するこ

## ◎關野博士動靜

工學博士關野貞氏は二十六日平南龍岡郡溫井里より鎭南浦に出で同日午後七時二十分列車にて平壤に歸來し柳屋旅館に投宿し二十七日滯在二十八日午前一時三十分發列車にて京城に向け出發せり（平壤）

▲廿八日入京　古蹟調査の爲め平安道方面に出張中なりし關野博士は二十八日午前南大門驛著汽車にて入京巴城館に投せり

## ◎仁川水道擴張

仁川に於ける最近水道使用數は私設共同千十三官設共同千二百一專用栓七百七十四計撒栓百六十六にして昨年同期に比し約七八分の增加を見たるが更らに松北里松峴里牛角里寺町金谷里新花水里花平里等の鮮人部落方面に鐵管延長八千尺二十箇所の官設共用栓を施設する計畫にて已に道長官の認可ありたるが材料不足の關係上工事の著手を見合せつゝあるも最早結氷期も迫りたれば材料到著次第近日中に敷設に著手すべく更らに既設中の給水栓にして使用者殆んどなき者は他に移轉すべく目下調査中なる其數は六七ケ所なる可しと（仁川）

## 嶺南廻り　鯨洋

□車中より啓上　連日の陰霾天は破れて、裡里を發してよりさに引き替へ、飛雨車窓を打ち、冷氣頻なり、除中の連絡は、雲を被りて、何の眺望をも與へず、殊に新穀出廻其他にて、湖南線は、殆ど毎列車遅延せざる無く、車中の退屈、甚し、約一時間の延著、大田に到り、伊藤支店長と會し、所要の打合後、直に大邱に向ふ。顧れば既に平安南北、忠清南北、全羅南北を踏破し、引き續き一氣に慶尙南北を、走破せんとす。洵に電信的飛脚と云はざるを得ず。大邱は夜來發天、時々飛雨あり、寒冷強く、暖國より一變して寒國に轉居の感あり。殊に今朝は微雨に交りて降雪あり、之れ本年の初雪か（廿七日）

## ◎鴨江上流航運停止

遞信局にては鴨綠江に施設し居る浮標を此程來全部撤去したるが上流方面は既に結氷したるに付總督府の命令航路たる鴨綠江運輸公司の高瀨舟は漸次航行を停止し昨今は下流のみに於て航行中なりと

## ◎鎭南浦商工學校落成

中村精七郎氏寄附にかゝる鎭南浦府立商工學校舍は目下建築殆んど落成し來月十日頃舊稅關假校舍より移轉する由にて目下準備中なり同校は本年中更に一名の教員を增聘し來年三月に至りて新入生徒を募集し同時に數名の教員をも增聘し四月卽新學期より實業學校としての設備充實すべしと（平壤）

## 平壤

▲平南蠶繭輸移出調　平安南道に於ける大正五年度家蠶繭輸移出額を調査するに內地に輸出せし數量は八千百十二石にして京城龍山水原大田の各地に移出したる數量は一千二百十一石計九千三百二十三石なりと云ふ而して此等蠶繭の積出驛を聞くに平壤驛七千二百十二石中和驛百十一石順安驛七石肅川驛百九十二石新安州驛一千三百五十三石岐陽驛四百五石此他小包郵便に依りて輸移出せしもの四百三石なりと云ふ以上に依りて平南に於ける養蠶業の趨勢を知ることを得べし▲川西貞氏の出發　東亞煙草會社製造課長に榮轉せる川西貞次郎氏は家族同伴二十七日午後一時三十分發列車にて平壤發任地に向へり驛構內には市川少將白井檢事長鳥山覆審法院長初め官民有志並に婦人等約百名其他東亞煙草平壤分工場職工事務員等二百餘名又列を爲して見送れり

## 仁川

▲久水府尹上京　久水仁川府尹は防疫費補助の件に關し二十八日午前十時發にて上京總監部に警務總長を訪問したり▲人力車定期檢査　仁川警察署にては來る三十日定期人力車々體檢査を施行す▲輸出米檢査區域擴張　仁川輸出米檢査所にては輸出米の檢査區域を一定し有りたるが近時米穀の吸集力大にして到底從來の銀行倉庫前の檢査所にては狹小にして檢査實行上の敏活を缺くを以て廿七日より之を擴張し廻著米同樣區域外と雖も百叺以上の請求に對しては檢査員出張して檢査を施行する由數量は濱町百叺以上花町二百叺以上桃山町三百叺以上柳町三百叺花房町百叺以上山手町百叺以上なりと▲長野縣人會　仁川長野縣人會にては來る十二月五日亡年會を兼ね本年の納會を催す由▲俱樂部總會　仁川俱樂部にては二十八日午前六時より仁川ホテルに於て例會を催し過去一箇年間の事務及び會計の報告ありたる後評議員の改選を行ふ

## 群山

▲女教師逝く　群山實科高等女學校教師藤田しづ女史は本年四月女校創立と共に同校教師として來任し熱心教鞭を執りありしが數月前病を得て療養の結果稍々輕快せるを以て職務に精勵なる女史は山本校長の靜養を勸むるとも肯かず前月來教壇の人となりしが再び病革り療養の効も無く任地に永眠せるが女史は文部省教員養成所出身の才媛にて年齡僅かに二十二前途多望の教育者なりしに惜むべし▲委員報告會　既報船腹問題の爲め當局及び朝郵本社に對し交涉委員として上京せる群山貿易商中柴萬吉氏石井商業會議所書記長は二十六日夕著列車にて歸群したるが二十七日午後四時より群山米穀商組合に役員全部を集め兩委員の京城に於ける各方面に對する交涉顚末の報告ありたるが多少輸出當業者の希望を充したるものゝ如し▲定期船增發　大阪商船にては群山米穀輸出業諸氏の希望を容れ臨時船として第十四渡津丸を廻航する事は既報の如くなるが別に北日本汽船會社に貸船として樺太北海道間に從航しつゝありし仙頭丸（一千噸）を從來四隻の群山定期寄港船に加へて從航せしむる事に決し二十七日大阪を發したれば十二月一日頃群山入港の豫定なり

## 清州

▲火葬場改築落成　清州學校組合にて過般來改築中なりし火葬場は今回愈々落成したり▲畜牛購入員出張　既報の如く忠北道にては今回平安北道にて三十餘頭の優良種牛を共同購入することゝなり新川道技手瀨戶道書記の兩氏は二十七日出發したり▲永野警視來淸　總監部附永野警視は會計事務檢査のため二十七日來淸警務部署にて檢査を行ひたり▲市中の活況　年末に差迫りたると出穀期に際し徵稅期を目前に控ふるため開市當日の出穀多く從つて商況益々活氣附きたり▲趙郡守赴任　今回鎭川郡守を拜命したる元道書記趙漢駒氏は二十七日淸州發赴任したり

## 釜山

▲佐藤少將北行　鐵嶺步兵第五十三旅團長陸軍少將佐藤祐次氏は九州に於ける大演習陪觀を終へ岡山に立寄り廿七日午前九時入港新羅丸にて來釜同十時三十分發北行列車にて鐵嶺へ直行歸隊せり▲田中海軍少將　鎭海要港部視察の爲め來鮮せる佐世保鎭守府工廠長田中海軍少將は二十七日夜八時三十分發新羅丸にて歸任したり

## 人事消息

▲谷井濟一氏（朝鮮古蹟調査委員）　二十八日朝入京巴城館へ
▲太田亥十二氏（商人）　入京中の處二十八日朝退京
▲河野通太郎氏（陸軍協會員）　同上
▲中村正一氏（關東都督府附工兵中佐）　二十八日入京同日釜山へ
▲白井水城氏（辯護士）　廿七日入京廿八日退京

## 社告

大田新聞取次變更

京城日報、每日申報大田取次店小倉熊太郎氏今回廢業十一月以降業務一切を擧げて
大田本町二丁目　片岡寅太
氏に讓渡致候に就ては十一月分よりの新聞代は何れも新任者片岡寅太氏に御支拂方願上候也
京城日報社販賣部

◎正誤　本月廿三、廿五、廿七日本紙掲載の東京美滿津商店廣告中小包重量六百目を四百目に正誤す

## 商業登記公告

朝鮮貿易株式會社取締役趙秉澤ハ大正五年拾壹月拾六日其住所ヲ京城府昌信洞六百壹番地ニ同月拾七日其ノ住所ヲ京城府白巖洞百五拾貳番地ニ同月同日其ノ住所ヲ京城府唐珠洞百貳拾九番地ニ李容鐵ハ同月同日其ノ住所ヲ京城府貫鐵洞百貳拾七番地ニ各移轉シタリ
右大正五年拾壹月貳拾貳日登記

京城電氣株式會社ハ大正五年拾壹月拾參日各新株ニ付金七圓五拾錢宛拂込ヲ結了シ各新株ノ拂込金額ヲ金五拾圓ト變更シタリ
右大正五年拾壹月貳拾四日登記

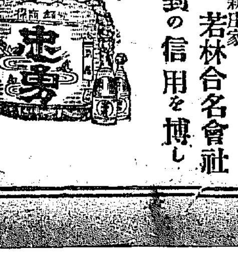
京城地方法院

## 工事請負公告

一、峴底洞監獄增設及模樣替工事
此入札保證金ハ各自入札金高ノ百分ノ五以上
入札者ハ京城府內ニ於テ國稅、地方費、學校組合費年額參拾圓以上ヲ納ムル者ニシテ二年以上斯業ニ從事スル者ニ限ル
[illegible]
大正五年十一月廿七日　京城府


白神洋行　京城
鐵材　鋼板　浪板　平板　針金　洋釘
新田帶革總代理店
物價表御一報次第無代進呈
ペイント、油類一切、コークス、セメント、耐火煉瓦、モルタル、スコップ、シャブル、帶革、ロープ、機械、工具、附屬品、其他

質
多年御信用厚き弊店は今般市區改正に付改築と共に一層堅固なる煉瓦倉庫を新設し一層勉強安全確實に御預り申上候
京城本町三丁目三十番地　田村質店　電話一八四番
本町三丁目通りより新設大道路に入りて北へ約廿間西側小路

品質の優秀は
最後の勝利を獲得す
絶對の信用を博し
酒　酩


宮内省御用酒醸造元　灘津灘新庄家　若林合名會社
特約店　京城本町三丁目　山本富之助商店　電話五七五番

# 明治神宮の神苑
## 設計全く成る=幽邃淸淨の神境

明治神宮神苑の設計は其後の評議員會に於て多少の變更を見たるが今回全く其完成を見たり、卽ち社殿は敷地中央部の高地、二抱もある老松鬱然林立せる淸淨の地

◈六千坪を劃して建設し本殿の周圍は彌が上にも森嚴を保たしむる爲建築に差支なき限り件の老松を其儘生かせ而して南方正面は之が爲め新に樹木を植栽する面積少きも本殿左右と背後は全部を森林を以て圍繞せしむる筈なり、先づ背面空地の中央には二萬餘坪の小丘を築上げ之を中心として其周圍には黒松、椿、樫、杉等の針葉樹或は楠、樫、椎、欅其他各種の常綠濶葉樹を植ゑて將來の鬱蒼たる常綠大深林を作る、又

◈本殿左右には 杉、松等の常綠樹に配するに欅、銀杏、楓、其他の落葉樹、野趣ある山櫻古色ある梅などを以てして純然たる天然林を形成せしめ此の大深林と寶物殿間の低地には小流を穿ち流末には大池沼を作り其附近には武藏野特有の雜草、水草、鮮苔類を移植して茲にも武藏野の面影を偲ばしむべく右の用水としては新宿寄りの低地に井戸を掘りポンプ仕掛にて不斷の淸水を湛ふる計畫なるが倚表參道右方の低地にも

◈約六百坪の池を穿ち本殿四周よりの落水と昔加藤淸正が穿ちしと傳へられ今倚ほ滾々と湧き出づる本殿西北隅の吹井の淸水をも之に引入るゝ仕組あり途中には低地を利用し自然的の溪流小瀑布等を見することゝなるべし以上の設計により大正九年六月頃迄に全部完成する豫定にして神苑の全總工費は四十萬圓以上に達すべしといふ

# 西比利亞は零下十七度
## 重砲を据付に行きし某將校の歸朝談

巴城館に滯在中の露國から歸つた或る砲兵士官は重砲据付作業に就いての質問に答へて曰く「われ〳〵は去年の四月から露西亞に行つてやう〳〵一年

◇七箇月目に 日本に歸るのである、我々が露西亞でなした重砲据付其他軍事に關することは一切語ることは出來ません朝鮮に來て見ると滿目の風光總て日本內地に異ならず實に愉快に感じるのであるが遙々歐羅巴から歸ると最早ハルビンで內地に歸つた氣分になる、西比利亞はモウ零下十六七度の嚴寒で露都もなか〳〵寒かつた

◇露西亞では 主に露都をキエフとオデッサの方面にも行つて居たがまた一部の戰線に近きあたりにも出掛けた、私共が始めて露都に著いた頃はワルソウが陷落した當座でこれには有繋の露西亞人も少しは懲りたかと思つたが街上の景氣は平時と少しも異ならず何處を戰爭の風が吹くかといふ有樣であつた、これを見ては有繋に大國は大國だなと思つたが昨今では

◇物價の騰貴 に少々戰爭の影響をうけた風が見え出した、始め露西亞が獨逸からやられたのは全く武器の補給が不足なのでこれではさすがの無理もないことであつたが日本から供給した小銃や重砲、野砲が大に間に合つたとのはなしも聞いた併し商爲攻圍戰に用ゐたわが給方砲を露西亞に供給したといふ噂は如何かと思ふ

◇何れも驚く やうなとばかりしてであるが誠に高架索とウラルを除いては一望際涯なき大平野であるから驚く、露都ではこれからネバ河上の氷滑りが面白いが雪はどれだけ降つても凍りついてゐるから外套の濡れる虞ひは少しもない、それに太陽の見われぬ日もあり夜のない白夜もありちよつと暖國の

◇日本人には 不向きの天氣がつづくやうである、私共は十四日に露都を出發して十日ぶりに二十三日ハルビンに著いた、西比利亞鐵道の荷物輸送、それは驚くべき大仕掛のものです

# 自動車に機關砲を
## 据ゑて長春哈爾賓間運轉計畫

東京自動車會社にては長春哈爾賓間に五臺の大型自動車を運轉するの計畫を以て目下吉林省支那官憲と交渉中なるが資本は日支合辨となし漸次擴張の目的を以て當初は前記五臺の自動車を運轉し別に馬賊防禦の爲め機關砲を据付けたる自動車一臺を運轉し交通路上の警戒に宛つる筈なり(長春特電)

# 原因は焚火
## 釜山大火詳報

廿七日午前四時頃釜山西町二丁目空家と其隣家土井庇太郞方との間より火焔立ち揚り居るを同町三丁目谷口質藏なる夜警が發見し附近の人々を呼び起したるが同夜は西風吹き荒みたる爲め火勢猛烈忽ち附近に延燒し藤瀨病院を始め全燒十九戶半燒三戶に及び午前五時二十分鎭火したるが原因は空家にて何者か寒さを凌ぐ爲め焚火をなし後始末悪しかりし爲め壁に燃え移りしものと判明し目下專ら取調べ中なり其際附近の釜山商業會議所の屋上高塔に飛火が燃ゑつきしを見留めたる者ありて大騷動なしたるも早速驅け付けし消防夫の働きにて直に消し止めたり燒失家屋は
西町二丁目加藤榮三郞、綿田和一、藤瀨病院佐伯石太郞、松井左馬太郞、池尻伊七、白方憲一榎本捌松、吉本たけ(一棟を)福田香一、三澤寅八、北崎錦次郞、土井庇四郞、木下四郞、等にして火災の損害高は約四萬圓の見込なるも其內火災保險に加入し居たる分は藤瀨病院六千五百圓(千代田)土井彥四郞七千圓(豐國)上田和三郞千二百圓(豐國)中野彥吉千五百圓(明治)等なりと(釜山)

◇初雪 △公州=全南公州地方は例年になき暖氣なりしが二十七日俄然寒冷を催し午後三時に至り遂に降雪を見るに至れり之を本年の初雪となす△淸州 二十七日朝來俄かに氣溫降下して午後四時頃より多少の降雪あり夜に入て寒威益々加はり午後八時室內氣溫三度七に達す

# 松花江流氷旺也

松花江流域は昨今零下十八度を示し流氷盛んにして航行の各汽船は此の程終航となりたるが本年度各汽船會社の純益は公濟汽船一萬留龍公汽船八千留愛輝汽船六千留其他各汽船會社の收益は二三千留宛なり(長春)

# 重石を藥に飮む
## 呆れた迷信沙汰

江原道寧越郡上東面地方にては近來重石鑛を服用すれば種々の病症は平癒し其の効能顯著なりとの風說傳へられ居れるを寧越憲兵分隊にて探知し實地につき調査したる結果去る九月中忠北丹陽郡東衣谷面斜院里生れの李斗榮(三○)なる者慶北奉化郡春陽面川面里の酒幕池仙景方滯在中附近の者に對し重石を淸水に溶解して飮用すれば萬病に奇効ありと吹聽したるより之を聞き傳へたる寧越郡上東面內德里趙叔然の妻金姓女が當時霍亂と稱する病に罹り重石三匁を淸水にて服用して卽時快癒したりといふが次第に噂となりて飮用するもの續出するに至りたるものと分り江原道警務部にて重石鑛の成分を分析試驗の結果人體には有害なる含有物あること判明したれば是等飮用者に對し說諭を加へ居れりと

# 古佛發見
## 慶北浮石寺梁上より

慶北榮洲郡浮石面浮石寺は新羅時代の建物として目下修繕中なるが去る二十日無量壽殿取解き準備の爲め香爐臺附付作業中同日午後四時四十分頃須彌壇背大虹梁の上より佛像十體發見し取敢へず總督府に其旨報告せしが十體共黄金色を存し立像五體、蓮付座像一體、蓮座立像四體にして三寸乃至六寸五分のものにして稀代の珍品なりと因緣由來に就ては尙ほ詳細の調査をなすべく廿七日慶北道廳より道書記木村靜雄氏を派遣せしめたり(大邱)

# 夜、寢るとき水道栓を解放して置くな!!
## 嚴重に罰する

二十七日の朝から漸く冬らしい寒氣が襲うて、朔風耳を劈んざく程であつたが此れからだん〳〵結氷期に近づくに從つて水道使用者は栓の凍結に注意せねばならなくなつた、此れに就き仁川水道事務所長の話を聞くに

從來冬期間は上水の ◆使用量が最も減ぜねばならぬのに盛夏の最多使用量を凌ぐ事約二倍に達する事があつた爲め調査して見ると專用栓及び私設共用栓を使用して居る家では夜間の凍結を虞れて栓を解放したまゝで寢て了ふ樣な無責任の事をして居つた事が解り嚴重に放水處分を斷行して取締つた、其結果逐年良好の成績を擧げつゝ有るが未だ〳〵一般に當局の注意に對して冷淡であるのは遺憾に堪へない、本年も已に結氷期も間近かになつたから此際一般使用者に對して注意して貰ひたいのは

冬期中の專用栓は ◆後部にある長い栓を用ひる事凍結した場合は栓の把手に西洋手拭の類を卷きつけ少量づゝ熱湯を注ぎ、萬一把手を廻轉しても吐水せぬ場合は水道事務所・修繕方を請求する事等である、一體仁川の給水栓は容易に凍結せない。使用者が後部の栓を廻轉さへすれば激烈な寒氣が襲はぬ限り大丈夫であるから夜間の凍結を厭がつたり、朝鮮氷の煩を厭うて、栓を解放する樣な事のない樣一般の公德心に訴へて置たい云々

# 一寸したことで二百名の亂暴

慶北聞慶郡廳にては本月二十一日同郡內山陽面に架橋工事の爲め身北面內より三百名の賦役を召集し鳥嶺山の國有林より

▲橋材を運搬 せしめんとしたる際內五十名は邑內の酒幕にて休憩し居るを當日其の監督者たる郡廳臨時雇人宮林好敦(二七)が之を認め人夫等を督勵し現場にて從業せしめんと其旨を命じたるも一向に肯せざるを以て有合せたる木片を以て追立てんとしたる際誤つて二名の人夫に觸れたるより人夫中主立ちたる▲身北面八步里農蔡聖(三二)▲同面場浦里崔出伊(三六)▲同面[illegible](三五)秋亦國(四八)外二名等は密議を凝らし同日午後五時頃の終業時秋病國が先頭に立ち大聲して監督者

▲宮林を包圍し 裴きに人夫を毆打したる行爲を叱責し同時に從て課し合はせたる二百餘名の人夫が一齊に鯨波を擧げて殺到し宮林は袋叩きに逢はんとしたるより附近に居合はせたる中島彌三郞(三一)石工三宅壽一(三○)の兩名が之を救助せんとしたるに是又大渦中に捲き込まれ事體頗る危險なるを見て郡廳の光田郡書記が非常警鐘を亂打したる爲め人夫等は大に辟易して直ちに解散し前記三名は何れも二三の輕傷を負ひたるのみなりしと一方急報に接し聞慶憲兵分遣所にては全員急遽現場に出張して主謀者なる前記の八名を引致して目下嚴重取調中なりと

# ◈獲らぬ豺の皮算用
## 野良犬を警察へ擔ぎ込む

慶尙南道東萊郡[illegible]里附近に豺出沒するより警戒中なりしが去る二十二日[illegible]に於て野人農夫が仕事に從事中一匹の豺らしき獸が附近の山中に姿を現はせしを認めスハ豺の出現よと近所の者を呼び集め手に手に棍棒鳶口竹槍を持つて大卷狩を始め遂に難なく撲殺したれば東萊警察署に屆出で懸賞金十五圓を頂戴せんと前祝の濁酒に舌鼓をうち獲れた豺を擔架に荷はせエンヤ〳〵と三里許りも擔ぎ出し早速東萊警察署に屆出でたるに鑑定の結果豺に非らで野良犬と解り骨折り損の草臥れ儲けでスゴ〳〵と引返したるが一方豺と見誤られし野良犬は[illegible]家の飼犬にて此事を聞くや飼主の家では早速東萊署に對し當家の飼犬が豺と見誤られ朝鮮人に撲殺されたる由なれば怨ろに弔ひくれよと陳情せしとか而して右の飼犬は脾腹飽く迄細く前上歯は全部取れて只僅に鋭き牙を殘すのみなれば豺と寸分違はざるも豺に異りたる點は足脚並に毛並の怪しき事なりと

# 土中より觀世音

江原道襄陽郡西面居住の鷹炳壽なる者數日前同面西林里の壁寶山中に山人蔘採取に行きたる際該地國有林內の山地より赤銅製塗金の高さ四寸五分の觀世音菩薩像一體及び蓮座一臺を發見し所轄警察署に屆出でたるが該地所は高麗一代の巨刹西林寺の遺跡地として現に石塔一個殘存し居れりと

# 鯖一萬五千尾
## 爆藥で漁獲す

釜山警察署警備船鯤丸は沿岸警備の爲め航行中二十五日午後六時頃蔚山郡方漁津沖合にて怪しき發動機船の南航せるを發見したるを以て直に停船を命じ船中を取調べしに鯖一萬五千尾を搭載し居り船名は漁福丸と云ひ鹿兒島縣河邊郡西加世田村漁業者なるもの、所有船にして乘込居れる船長は所有主の弟森國衞(三五)なるが積載せる

▲鯖の出所を 訊問せしに慶尙北道盈德郡沿口にて釜山牧の島某の所有漁船二艘より買取りたる旨申立てしも警備船に乘込み居たる釜山水產會社技手神谷氏の鑑定に據ればダイナマイトを以て漁獲したるものとの事に嚴しく訊問せしに遂に包み切れず自白する所に依れば國衞は同縣同郡同村なる上村勇吉と共謀し四千五百尾は同人がダイナマイトを使用し漁獲したるを一尾四錢五厘の割を以て買取りたるものにて下の關市場へ運搬中なる旨申立てたれば國衞、勇吉兩人は漁業取締規則違犯として鯖四千五百尾と共に蔚山警察署に引渡し取調べ中なりと因に近頃慶尙北道

▲迎日灣附近 の東外串大浦里俗に(煙台村)及び盈德郡江口を根據とし九龍浦沖合に毎日七八十艘の不正出漁者ありたるが方漁津にて漁福丸が捕はれたりとの噂を聞き直ちに所在を晦したる由にて是れ等漁船の仲間は巧に連絡を採居れりと(釜山)

# ◉郵便行囊流失す

全南長興郡海倉面沖合にて十一月二十五日午後十一時三十分頃解船一隻轉覆し積載の郵便行囊大小六個を流失し目下搜索中なるが乘客乘組員等に異狀なしと

# ◉爆藥を隱匿す

平安南道成川郡崇仁面歸仁里林遠謙(四○)同面同里張擧道(五七)同面公里趙永澤(四二)の三名は何れも同郡昌鑛山の鑛夫なるが十月十日同鑛山に使用すべき爆發ダイナマイトを受取り十一月十日まで所用の數量を消費したるも殘品廿七本を隱匿し居たる事露顯し本月廿一日銃砲火藥取締令施行規則違反として三名共笞刑に處せられたり

◉鷹狩で科料 平安南道陽德郡大倫面孔眞里七統五戶農孫尙稷(六二)同郡同面同里銃製造業朴太根(四五)は此程許可を受けず鷹で雉を取つた廉に依り本月廿日陽德憲兵分遣所に於て孫は科料五圓朴は四圓の卽決處分を受けたり

◉松原總長元山行 西本願寺朝鮮開教總長松原氏は二十九日午前九時南大門發列車にて元山本願寺に出張す

## 燈ともごろ

▲探險畫家三迫星洲氏は京城へ來ると直ぐに舊知の辯護士の中村時章氏を訪問した▲應接室に通されて見ると自分が十二三年も前に中村氏が山口市で辯護士を爲て居た頃に同家の二階から龜山公園と市街の一部を寫生した油畫の額が懸つて居つた▲星洲畫伯久しぶりに自分の生みの子にめぐり合つた思ひがして今昔の感に堪へ兼て懷古鬼の涙をポロン〳〵こぼして居ると處へ這入つて來た中村氏に向つて『先生誠にどうも有難うございます朝鮮にまで連れて來て頂いて長の年月此樣に可愛がつて置いて頂いて』とオイ〳〵と手放しで泣出すので▲驚いて終つたのは中村氏だ一體何んの事だと聞いて見ると『コレです〳〵』と例の額を指さすと中村氏も成程久しぶりで自分の作品に巡り合つて嬉しからうと藝術家の心を思遣つて感じ入つて居ると▲久しぶりで自分の畫に巡り合つて見ると物足らぬ節ばかりだから一寸手直しを爲せて吳れろと云ふと今度は中村氏が承知しない▲それは飛んでもない話だ此の畫は自分の幼馴染の龜山公園や一人前に育つた高等學校の屋根などが昔姿の其儘に描いて在るので私に取つては樂しい追懷の友達だ▲あの學校の屋根などを眺めて居ると同盟休校の旗頭に成つた事や其頃の教諭の隈本有尙先生を消防ポンプで水攻にした事退校處分を喰つた事なぞまで目のあたりに浮んで來るのだ手入なぞして貰つて堪るものかと云ふので▲それなら久しぶりに逢うた子供の顏だけでも洗はして下さいといふので石鹼の水でブル〳〵と一洗ひして見ると此の油畫は十餘年前に描いた時と同じ樣に新らしい色に成つたので双方大悅びであつたさうだ

## 讀者文藝(一等には五十錢の書籍券を呈す)

▽川柳「飛」

○飛行家は結婚式を空で擧げ(一等) 京城西小門 神崎白樂天
飛込んでみたが淺瀬で這ひ上り 京城 廣安 [illegible]
▲飛んで來し馬丁が馬に乘りかはり 京城 未曉
▲仲人が飛んだ目に合ふ鯛の骨 仁川 碧天 [illegible]
▲歸り道飛んでくる子を抱き上げる 龍山 山家 吞公
▲飛ぶ鳥を落す醫者の腕の冴へ 京城 東[illegible]
▲飛び出して見たさ聞いたは大違ひ 釜山 めじろ 生
▲飛び込んで水風呂と知るあわて者 永同 笑[illegible]

◉仁川警察の夜警 仁川警察署にては師走に入りてより強盜竊盜[illegible]

◆仁川高女の授業時間 仁川高等女學校にては十二月一日より朝會午前[illegible]

[illegible]生れ[illegible]常藏(三六)は十一月六日[illegible]

◉連絡船上陸客 廿七日午前[illegible] 一等なし 二等(十名) 村谷吉藏、掛川德三郞、森賀不二、渡邊幸吉、深田與[illegible]

課題募集規程 ■募集規程 ▲用紙は端書又は西洋紙一枚[illegible]紙上の雅號又は匿名[illegible]

天氣 はれ 晴れ [illegible]

# 〈演藝案內〉

**浪花館** 明治町 電話二六○
廿八日晝の部 ○素人淨瑠璃納會 若葉會主催 △おつま八郞兵衞(大さ)△日吉丸三段目(梅滑)△彥山九ッ目(井筒)△明烏(金蝶)△儀作腹切(昭盛)▲躄の仇討(千雀)千秋樂

**有樂館** 本町一丁目 電話二六六
日本活動寫眞株式會社特約 十一月二十七日より三大寫眞提供特別興行 [illegible]

**黃金館** 電話一八五二(階上)二六三七(階下)
天然色活動寫眞株式會社滿鮮一手代理店 [illegible]

**御成座** 成町 電話一九一
第三十五回公演 一、替玉 全八場 二、喜劇再會 全二場 [illegible]

**大正館** 櫻井町 電話八七三
日本活動寫眞株式會社朝鮮代理店 [illegible]

食道樂開店
▲▲やすくておいしく▼▼ なんでも致します
春川(電話は三七へ) 松葉

移轉廣告
本院左記へ移轉仕候
野田齒科分院
仁川本町三丁目四番地(井上藤吉商店下)

歳暮大賣出 景品附
十二月一日ヨリ三十日マデ
歳暮大賣出開催仕候
例年の通り御慰として 景品差上申候
景品は御買上高 金壹圓毎に券一枚差上 即時引換に現品 御渡し申候
景品山の如し (但し空籤なし)
京城本町に 丸一吳服店 電話 六三五 一〇九一

## ◉青年學舘の思出
**中央基督青年會總務　尹致昊氏談**

京城鐘路中央基督教青年會の事業として經營し來りたる青年學舘は設立十餘年に及び多數の卒業生を出し學界に貢獻する所少からざりしが明年度よりは經費の出處なきに至りたるを以て此年末には舘員生徒の解散を行ふことゝ成れり英語及び其他の講習所は組織を變更して其講習所の收入を使用する條件として殘して分離することゝなり青年部に使用し來りたる經費は其各所業の需求に依り工業教育に使用することゝなしたるを以て明年度よりは工業部に於ける以上の方面に使用せらるべしとの事なるが右に就き青年會總務尹致昊氏は語りて曰く

青年學舘は去る二十五日の青年會理事會に於て決定せる通り今年十二月限り廢止することゝ成れり此學舘の廢止となりたる理由に就ては唯一の

▲**單純なる原因** の存する迄にして是は他に其例の乏しからざる金錢問題に外ならず元來青年會の學舘は毎年學生より受くる授業料及び其他の收入を使用することとし工事費三千圓の不足あり最初は政府より一萬圓の經費を補助し其内より其不足額を補充し來りたるに數年前よりは政府の補助を廢されたるを以て米國より送り來る補助金を以て補充し來りたる次第なり然るに米國よりの補助金は米國にある萬國青年會委員會より送るものにして其の金額は毎年六千七百圓位なるを學舘の

▲**不足にも補充** し工業部の經費にも使用し又青年會の經費にも使用して今日に至りたるものなり然るに今年秋に至り米國の萬國青年會委員會よりの書狀又は電報を以て嚴重なる督促あり元來青年舘は各地方にだけ收入を以て維持するものにして是迄多年多數の補助金を送りたるは全く異例に屬す每年の報告に依れば其補助金の多數は普通教育の爲めに費消せらるゝ傾あり其補助金送致の目的は朝鮮人に工業教育を施さしめんが爲めなるを以て明年度より其六千圓の

▲**全部工業教育** に使用すべく若し他に費消するが如きに於ては之を拒絕すべしと云ふにあり明年度よりは其補助金中より三千圓を使用し得ざるのみならず其他にも良好なる方法なきを以て已むを得ず之を廢止することに決定したる次第なり十年以來經營し來りたる此の事業を一朝廢止するに至りては惜みても餘りあり

## 寒氣と姙婦の養生

■毎年十二月は分娩期だと云ひますが寒さに向つての姙婦は餘程注意をしないと飛んでもない事が起ります、多生れた子は弱いと云れるのも其邊の注意を怠る者が多いからなのでせう是に就てさる産婆の話を聞いて見ましたら

■もう臨月に近い姙婦がよく腹が痛むから生れるのぢや無いかと心配する者があります、併し陣痛の苦しさでは無くて實は腸を患つて居る結果が殊に多い相です

■それも臨月の姙婦が不攝生な食物を喰べたり用事に取りまぎれて夜中の冷氣に襲はれたりして腸を害ふので從つて便秘を起すので惱うなると熱が出て腹部を壓迫して自然分娩期を早める事になります、殊に臨月になると胎兒の重量が一日に七分增加するので是等の腹痛から陣痛を起すのだと云ふのです

■だから産期を早めた子供は纖弱なので一寸した母親の不注意から取り返しの附かぬ事になるのです、其れ故姙婦の注意を記せば斯く腸を患つて便秘を起した場合は直ぐと食鹽灌腸をするのかヒマシ油で腸を洗ふと云ふ風にせねばなりません

■其の外風邪に罹ると産褥熱を起し易いから餘程注意をせねばなりません、殊に此の寒さに洗濯をしたり、拭き掃除をする事は腰を冷して冷込む原因となるのだから呉々も胎兒の事を考へて自分で注意をしなければなりません

## 百日咳

一年中で百日咳の流行する時季は四五月頃と十一月下旬十二月上旬の頃で氣候の急激に變るために起る病源はボルデージャン氏の發見せる百日咳の黴菌であるが

◇**此黴菌** は空中に棲んでゐるから空氣傳染が非常に早い其故學校や近所に百日咳の子供が一人でも出來たら學校の先生や母親は其豫防に充分の注意をしなければならぬ殊に最も

◇**此病氣** に罹り易いのは生後一箇月位の嬰兒であるから之れには母親が猶ほ更注意しなければならぬ無論一般幼兒にも決して油斷はならぬ

◇一旦此黴菌が傳染すると最初二週間位は潜伏してゐて何の症狀も現はさないが其後になつて始めて普通の感冒のやうに咳を始め

◇**咽喉が** 紅くなり聲が嗄れて來る以上を加答兒期と稱するので此が更に一二週間を經過すると痙攣期に入り氣分が俄に惡くなり深い吸氣の後長い連續した咳が出て最後に笛のやうな音を發する乳兒などは時々この咳のために絕息し甚しきは普通の幼兒でも吐血するのである

◉**日の出學校の講話會** 二十九日午後七時より日の出小學校の主催にて小學校、辯護學校教員及び商業學校生徒一同に對し同校講堂に於て『組育土地建物株式會社長岡本米藏氏・生美感』並に『組育市場趣感』なる演題の下に横尾榮太郎氏の講話ある由

◉**中岡氏の講演** 女子技藝學校にては二十八日正午より中岡駿雄氏の講演あり演題は落葉の吟梅田雲濱の妻のはなしにて二十五日夜七時より中部夜學校にて同氏の講演あり演題は牙彫人形あるが一般の人の來聽を歡迎すと

□**鱠らんぷ** 鱠な三枚にして鹽酢につけ置き別に昆布をやはらかに茹でよく洗ひそれにだし砂糖醬油にてむつけてよくさまし三四寸の丈に切り前の鱠と程よく切りて昆布の中に入れてくるくるとまき暫く押しならして五分位の小口切りとし小丼に盛る（青木はつ子）

## ◈朝鮮結婚の巻（一）

▽**妻は何うして擇ぶか** 由來朝鮮では血族結婚は斷然取締まることになつてゐる、是れは頗る賞揚すべき美風である、一面社會的の

◈**制裁** として同族の結婚は之れを犬狗と同視し背徳悖行の最も甚しいものとして絕交し又は同里から追放する等の處分に附したものである男子は十四五歳女子は十二三歳に達すれば婚約をなし或は取行ふてゐるが結婚に就ては夫婦となるべき當事者には些少の自由意思を與へず凡て親の意志に依つて行はれてゐる是を以て夫婦間には何等の

◈**故障** も不服も申されないことになつてゐるから素より內地人の夫れのやうに見合ひなどはやらない又媒介人の如きも之を以て一定の職業の如くやつてゐるものがあり、取極めに就ては朋友又は知己の

◈**斡旋** に基くもあり相互の親の親密なる間柄から生れることもある併し媒介人が媒介に任ずることは內地人同樣である尤も親と親との取極めた場合は媒酌と稱するものが立會ふ例になつてゐる次に妻女の選擇方法として第一血族結婚を避け迷信的から來る男女雙方の生年、月、日、時に依つて

◈**運勢** を卜することがある、之を四柱と稱し四柱の合致せぬ場合は女が夭死するといふ傳說がある、爲めに相互に之を交換するを例とし先づ男の方より先に女の方に送るのだが其形式を記載せるものを白紙の

◈**封筒** に入れ色絲を以て之を束ね更に風呂敷に包むで送る女は之れを受取つて卜者（巫女）に依頼して判斷を求むるのである此の事を宮合と稱し女の方でも同樣のことをやつて最後に男の方に返戻する婚姻年齡は地方に依つて幾分の徑庭はあるが總じて早婚の方である、早きは十歳未滿で既に

◈**儀式** を行ふものもある、而して夫が年少であつて婦が二三歳乃至四五歳年增のものを娶ることは內地人と甚しく異る所である、其頃は單に夫婦としての儀式を行ふに止まり何れも相當の年齡に達する迄合衾せぬことになつてゐる、又地方に依つては

◈**婚約** は整つても直ちに華燭の典を擧げず、一定の年月を俟つて黄道吉日を選み其の日を期して式を行ふのである斯うした場合は婚約證書の取交しをなし或は親と親とが姙娠中の胎兒と結婚せしむべきを約することもある先づ內地人の許嫁と同樣のものであらう

## 商況

### 東京 債券現物特電
二十四日出來値段（前日との比較）

| | |
|---|---|
| 東京市債 | 一八二、〇〇 |
| 京城電氣 | ― |
| 朝鮮銀行 | ― |
| 朝鮮瓦斯 | ― |
| 南滿鐵道 | ― |

### 東京 公債直取引
二十八日出値段（前日との比較）

| | | |
|---|---|---|
| 五分利特別 | 九九、五〇 | ― |
| 五分利 | 八四、四〇 | ― |
| 四分利 | 八三、四〇 | ― |
| 四分利 | 九九、五〇 | ― |

### 深川在米特電
二十八日現在高

| | |
|---|---|
| 朝鮮米 | 一、九二一 |
| 盛岡米 | 六九、七五九 |
| 内地米 | 二一四、一九八 |

### 東京期米特電
二十八日前場

| | 一月限 | |
|---|---|---|
| 寄付 | 八一、一一 | ― |
| 高値 | 八二、二二 | ― |
| 安値 | 七九、九五 | ― |
| 止め | 七九、九五 | ― |

### 大阪株式特電

| 銘柄 | 前日 | 廿七日前場 |
|---|---|---|
| 宇治川 | 三、〇 | 六九、四〇 |
| 神戸電氣 | ― | ― |
| 京阪電 | ― | 五二、〇 |
| 和歌山水力 | ― | ― |
| 合同紡 | ― | 三二、二〇 |
| 鐘紡 | ― | 三六、〇 |
| 同新 | ― | ― |
| 東洋紡 | ― | 二二、二〇 |
| 大阪商船 | ― | 三九、二〇 |
| 日本郵船 | ― | 三八、三〇 |
| 大阪米 | ― | 三三、八〇 |
| 東京株式 | ― | ― |
| 大阪株式 | ― | 六九、〇〇 |

### 大阪三品特電
廿七日前場

| | | |
|---|---|---|
| 二十七日前場 | 八四、〇〇 | 八五、二〇 |
| 十一月限 | 八七、〇〇 | 八七、四〇 |
| 十二月限 | 八八、四〇 | 八八、三〇 |
| 一月限 | 八九、一〇 | 八九、三〇 |
| 二月限 | 八九、〇〇 | 八九、五〇 |
| 三月限 | 八九、五〇 | 八九、七〇 |

### 大阪期米特電
二十八日前場

| | 先限 | 中限 | 當限 |
|---|---|---|---|
| 寄付 | 一六、九八 | ― | ― |
| 高値 | 一七、二九 | ― | ― |
| 安値 | 一七、六七 | ― | ― |

### 下關期米特電
二十八日前場 當限 中限 先限

| | 當限 | 中限 | 先限 |
|---|---|---|---|
| 寄付 | 一六、三三 | 一六、三三 | 一六、八〇 |
| 高値 | 一六、三三 | 一六、三三 | 一六、八〇 |
| 安値 | ― | 一六、三三 | 一六、八〇 |
| 止め | 一六、三三 | 一六、三三 | 一六、八〇 |

### 雜報

◉**銑鐵類手堅し** 工業界の殷盛なるに拘らず鐵價暴騰の波動にて需要者側は中古物を購求し當面の急を凌ぎ居たりしため鉄許可剛堅なる所迄レールは石炭不足を告げ爲めに購求したりしが最近に至り……

◉**細布は昂騰** 輸出綿布類は本國の高值を反映して騰貴し……

### 十錢方を引上

二十七日細布各種共十錢方を引上げたり

◉**丸鐵下落す** 鐵材中除く外は前報の如く概ね軟調を呈し昨今角平鐵類の相場に持合ひ居れりと雖も九鐵の如きは二三四圓方の下落にして四五六分丸十貫目七圓四十錢

**見當** なる唱ふるに至りしが原因は當業期の經過と內地製造壓迫が主動となり居れるが如しと

◉**精白移出口旺盛** 白米移出口は頃日來よりの好況を見越し何れも昭和腹込みつゝありしに相當注文入の品騰を見越し何れも昭和腹裏にて餘り内地筋の買進み等せしにより上値に賣る譯なれ共米所に於ても此迄値頃の見込も亦十錢處迄を以て仕入れ品に大阪へ叺入の十六圓五

**十錢處** 込れ値頃込を以て頗る好況……

㊞ **森仲買店** 仁川海岸町三丁目 米豆取引所仲買人 電話店用長九〇五番 本宅電話八三二番

◉**精米卸値引締む** 精米地場卸値は頃日來十四圓七八十錢處を持合ひつゝありしが移出商談の進捗と原料高等により米所は一齊に强氣となり最早

**下に賣應** せざる模樣なり

◉**蜜柑着荷す** 蜜柑は入荷途切れの模樣の爲め頃日來一時入荷途切れの模樣なりし處昨日千柳本口百柳內外の着荷あり且つ品痛み多かりし爲め配し熟期せし程良好なもの……

### 下關相場

▲朝鮮白米も硬 其後出廻り途切れたると產地高に逆れ各米主の氣强る爲め人氣强く硬を極めて十六圓三十錢處なりし十六圓一二十錢より廣く小口來値は十六圓三十錢處なり

▲小麥は薄商內 本品は依然見るべき商內行はれずして市況沈滯せるにも至らず然れども既に下に各手持筋の賣り急がるゝ事り氣方惡しからず之れ値は前報同樣なり

▲大豆は矢張氣强し 本品は前途何か案じ別に買進む相手筋も何分産地の如きは一時の安値より四五十錢方の引締りを見たるより自然の相場とり而して其後の輸入氣なり

▲肥料の現況 魚肥は前報後鯡鯟四百十二叺沃川物二百七十叺深川物二百叺島敢院産三百九十叺新石油二十本元山秋干か六百五十本近海鯡粕三十本鰯肥料二百七十叺等入荷あり何れも……

### 籾買入
京城南米倉町 **龍山精米所** 電話二二四番

### 京城正米

今相當に買覘きある旁各荷主の意向强きに依り相變らず人氣強く然れども何分値頃關係よりして此上餘り氣乘りがせぬ模樣……

船腹不足の爲め一時蹄躇の姿なりし白米移出口の商談も頃日來內地筋の買進み機運となり先約注文に……

### 南大門の廻穀

| | | |
|---|---|---|
| 平澤玄米 | 六七〇叺 | 金村粒二一〇叺 |
| 砂里院玄米 | 四一叺 | 平澤白米一七〇叺 |
| 平澤白米 | 六一〇叺 | 黃州精麻二三〇叺 |
| 金義白米 | 四六一叺 | 金谷白米一五〇叺 |
| 平澤白米 | 一一七叺 | 汶山小豆一四〇叺 |
| 木原白米 | 一〇一叺 | 西井里玄二七叺 |

### 仁川現物市場

▲精入米少 氣配は別段變らず
▲正米入津二百餘叺 氣配は安人氣なるも安値は跡を斷り
▲出來高は大豆入津五百餘叺 ……氣配は保合み看で居れり

### 釜山㉕市場　廿七日

▲正米（二十八日） 本邦正米界の好勢へたる商況に打つて注文不引合を唱へ客に逆れ持米の筋は手放さず又賣人の精米口の買氣旺盛にして賣人の呼び値に應ずる形勢なれば自然市場活氣を呈し相場は餘儀なく二十錢高となれり

▲大豆 船腹の都合も附きし樣子にて買氣盛んにして手堅き讓步を示し十錢高となれり

### 期米
仁川海岸町 米豆取引所仲買人
㊉ **千田商店** 電話（一七八番）

### 仁川期米

| | |
|---|---|
| 中 | 五〇二六個 |
| 先 | 四〇一個 |
| 合計 | 四六七〇個 |

### 二十八日前場 天候曇天

前寄十七圓六十七
大阪六十七 昨止より九錢高
入電一節六十七錢の移りにて當地寄十二圓八十五錢（中十二圓四十八錢より九錢引）

▲**二十八日前場** 當限㊟十二圓八十錢 ……

### ㊍キ原潮商店
大阪堂島米穀取引所仲買人
電話北 五三八、三〇九、三八二番

多少に不拘御注文願上候

### 五錢高に寄付

五十六錢と安移 大阪六節

### 市場零聞

▲**更に新高値** 天候朝晴 大阪の新高値を報じたるより前場より大に賣物多く出で……

### 田中善太郎
期米仲買人 電話二一八番・二二〇番

▲**存物多に過ぎなかつた**

▲**前場の手振** ……

### 仁川米豆取引所
二十七日の一月限

| 場前 | | |
|---|---|---|
| 寄付 | 十二圓九十錢 | |
| 高値 | 十二圓九十五錢 | |
| 安値 | 十二圓八十錢 | |
| 出來高 | 三萬八千六百石 | |
| 一節 | 十二圓八十錢 | |
| 二節 | 十二圓八十錢 | |
| 三節 | 十二圓八十錢 | |
| 四節 | 十二圓八十六錢 | |
| 五節 | 十二圓八十四錢 | |

賣買取組高

| | |
|---|---|
| 十一月限 | 九千六百石 |
| 十二月限 | 七百石 |
| 一月限 | 八萬五千五十石 |

### 青物小賣相場

| | | | |
|---|---|---|---|
| コイモ | 二五 | ハクサイ | 一五 |
| サツマイモ | 一五 | タマネギ | 三〇 |
| ハレイ | 一五 | ミズナ | 二〇 |
| アカメイモ | 二五 | レンコン | 二〇 |
| ナガイモ | 八〇 | サトイモ | 一八〇 |

### 依然動かず
今前場 大阪の上放れた受けて十二圓九十錢より二錢と跡を追つて八十三錢と押し五十錢に反撥して……

### 新高直に伸ぶ
……

### 迅速
（定期米賣買案内 御報次第送呈）
㊉ **廣澤正次郎** 仁川海岸町 取引所仲買人 電話一六〇番

### 確實
……

### 共多大の先約注文各精米所

……

### 弗々廻船
……

### 氣迷ひ一般の人氣は
……

△**今の小掬ひ買** 前場同店より買たる玉數三千餘石により……

△㊀**能く買ふ** ……

△㊁**能く買ふ** ……

△㊂**能く賣る** ……

△㊃**能く買ふ** ……

△**巳の大利喰** 今前場同店より玉數無慮一萬六七千石に上りたりとの事……

同 四日 同 五日 / 同 三日 同 四日 / 同 二日 同 三日

十錢書籍分を呈す（但何書何號と明記に限る）

### 東京株式取引所仲買人
㊉ **沖野米三郎**
東京市日本橋區坂本町十八番地
電話浪花 九三七番 四六四番 二二八五番 四六五七番（連接）

一、紹介人不要
一、證據金前納
一、注文、親切取扱
一、證據金表、照會次第送附

株式界波瀾重疊、興味津々此際多少の御用命を待つ

### 富の道しるべ
山縣五十雄 村上唯吉共著 價十五錢 郵稅二錢
京城太平通 電話三〇〇番 京城日報社代理部

### 期米 機密通信社仁川支局
仁川米豆取引所前

### 桑苗
（魯桑、市平、高助、其他各種、魯桑實生（純粹保險）接 木用實生及穗木）純良 請合 豫約 貴需
大田 **東蠶社** 長電話百つ番

### ㊑株式會社第一銀行京城支店
京城本町二丁目（振替貯金京城一一番）
資本金 貳千百五拾萬圓
積立金 九百六拾五萬圓
頭取 佐々木勇之助

銀行一般の業務は確實を旨とし精々御便利に取扱申候
內地朝鮮並に歐米樞要の地に爲替取引先有之候


## 陸海軍用 クラブ齒磨
### 懸賞包裝圖案審査報告

**應募總數** 人員……三千八百八名　圖案……四千五百九十五種

**審査**
東京高等工藝學校長工學博士 武田五一先生、本店囑託沖田沖舟畫伯を始め顧問、廣告部員、營業部員、其他本支店幹部員立會の上商標及び實用上其に意匠圖案の上よりし數回に亘り嚴密公平なる審査を遂げたる結果下記の如く決定仕候

㊀ **一等當選** 賞金參百圓
東京府下千駄谷町六〇四 前藤香雪殿

㊁ **二等當選** 賞金壹百圓
東京府下大森不入斗二七二 後藤春樹殿

㊂ **三等當選** 賞金廿圓宛
東京府下中澁谷四二五 渡邊審也殿
東京市四谷區大番町八九 森谷鵤堂殿
大阪市北區梅ヶ枝町六一 森川印刷所殿
東京市日本橋區濱花町三伊勢屋方 水谷芝郊殿
大阪市東區唐物町一 三木印刷所殿

▲**等外佳作** 人員……二百卅二名　圖案……二百十一種

等外佳作は更に甲乙丙の三等に分ち甲十一種、乙廿種、丙二百八十一種に對して夫れぞれクラブ化粧品を贈呈仕り候

製品には一等二等の兩種共採用する事させり但し一等は殆んど其の儘の意匠にて發賣し二等は弊店圖案部に於て沖田沖舟畫伯に托し訂正を加へて發賣する事させり

玆に審査の結果を發表するに際し應募各位に對して深甚なる感謝を表すると同時に今後一層の御同情御援助を賜はらん事を奉希候

クラブ齒磨
クラブ白粉
クラブ洗粉
總本店 **中山太陽堂**

# 宮本武藏

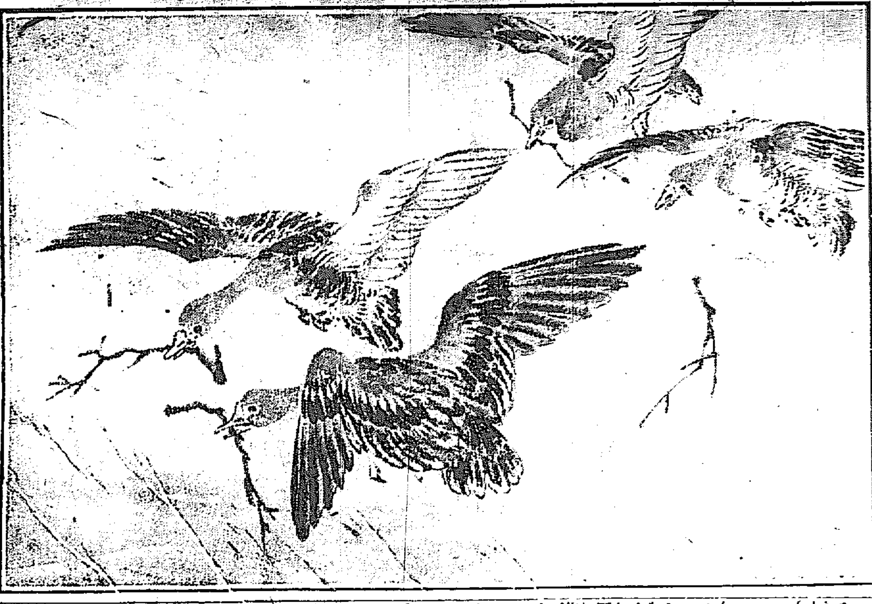
第二百二十九席

桃川如燕口演
浪上義三郎速記

此の本間久四郎が熱見の湯治場へ出て居りまして暁雲二天の隣り座敷に居りました處、朝夕顔を合せるから挨拶もする、殊に久四郎は碁が好きであるから毎日のやうに暁雲を招いて碁の相手をして居りますが、碁敵は憎さも憎し懐しくとか申して此の位面白いものは無いさうで、例へに云ふ碁に夢中になると親の死目にも逢へないと云ふ位であるから餘程面白いものと見ゑます、暁雲とは圍碁の友となつた、又二天は畫を描くから久四郎も扇短冊等を頼んで描いて貰ひました、偖久四郎が立歸る時に、久『如何でございます先生方手前方へお出下すつてお遊びを願ひたいもので、それも御都合が悪ければ仕方がございませんが』暁『イヤ別に都合の悪いことも無い、當所へ参つて暫くになるから立ちたいと思つて居た處である、それではお言葉に從つて御同行いたさう』久『それは何うも有難いことで』と大層喜びまして久四郎は此の兩人を同道いたし庄内の我家へ伴れて參り叮嚀に待遇をいたしまする、或時久四郎が二天に對ひ 久『偖先生お願ひがございますが、此の屏風は御覽の通り無地でございます、是へ何ぞ一つお認を願いたいもので』と取出して見せたは結好なる金屏風一双『二天『是は如何にも美事なもので是へ何を認めますな』久『何でも先生の宜いものをお願ひ申します』二『ハヽア左様か、何でも宜いと云ふなら何か一つ描きませう』と右の屏風を預つた二天が、是から下繪をつけて其の屏風へ描くことになつたが、總て畫工といふものは畫を描きますのに寫生と云ふものをしなければならんもので、狩野常信といふ人が三年竹を描いて居て出來なかつた、三年目に庭の竹を寫生してそれから立派に描き上げました恩師の前へ持て來て見せると大層感心をして 師『常信今までお前が描いた竹は手本について描いて居るから竹になりません、茲に始めて描いて來たのは寫生をした竹であるから眞の竹が出來た、總じて畫を描くには其の物を寫生しなければ眞のものは出來ません』と云はれて常信は大いに悟つたと云ふ話しがあるから宮本二天も寫生して描き上げましたのが、一双の屏風に何を描いたといふと一面に大きな松を描いて其の脇に雁が飛んで居る圖でございます、人々是を見て美事であると感心をしたが、然し何處の圖やら判りません、此時傍に見て居つたる暁雲が久四郎に對つて 暁『偖御主人今二天の認めた此の屏風へ俺が一筆書きたいから書しておくれ』久『ヘエ結好でございます、何うぞ願います』暁『是は函館の松と云つて、雁風呂の圖である、雁は寒くなると常世の國から日本へ來る、暑くなると是へ歸るものである、日本から常世の國へ歸る時に滿々たる大海の上を飛び行くので、途には翼が勞れて來ると枯枝を咬へて其の枝を海上に浮べそれへ止つて翼を休めて、又其の枝を咬へて飛び行く、此の函館の松が見當であるか松の根形へ枯枝を打捨て飛び去る、此の松の根形へ雁供養の爲に風呂を立て此の枯枝を入れて人々入浴をする、是を函館の雁風呂といふ』久『ヘエー始めて承はりました、それなれば雁風呂の圖でございますか』暁『如何にも、猶判り宜い様に俺が一筆入れませう』と暁雲筆を執て認めたのが

常世なる國に踊らう雁の
　暫し休らう函館の松

と認めました、如何にも名筆である二天暁雲の寄せ書といふ屏風本間の家の寶物でございます、此の屏風は只今以て本間家に殘つて居るといふことでございます



花柳病 皮膚病 須古醫院 京城府永樂町一 商品陳列館通坂の上 電話二一〇二番

坊が喜ぶ 木村屋パンに 添へてやりましよキヤラメルを (京城明治町 電二八七〇)

外科一般 皮膚科 泌尿器科 花柳病科 院長 安部修三 京城永樂町二丁目金光教會隣 安部醫院 電話四一九番

院長 醫學士 森定吉 内科 小兒科 京城本町三丁目 瓦斯會社向側 芙蓉醫院 電話二六二三番

質 京城黄金町二丁目 永樂町(停留所北入) 堀佐營業所 (電話六三九番)

## 曆

十一月三十日九星 舊十一月六日辛未 本命八白 良 成 佛滅

▲八白 あと戻りする事有る日注意 新事見合乾の方吉昨劍良▲九紫 圓滿なる日轉居入學旅行名弘求職縁上川獵紙改訴訟の和を計る等萬吉▲一白 水災き斷行る日新事手控萬事は吉紹介仲人等せぬがよし▲二黑 跡大なるかけ引事有る日新事手控義弟は吉新取引は用心せらるべし▲三碧 兄弟喧嘩を起さんとす謹而新事手控稼事土工ば妨なし▲四綠 平運の日午前不印午後は吉新事手控萬事は吉文散財を防がるべし▲五黃 女難亂酒用心の日新事手控萬事鼠賊盜難に妨なし▲六白 風留病く日轉居旅行入塾名弘金談求職婚談試驗を受る等萬吉▲七赤 喝釆を得る日轉居行商出遊名弘求職命弁緣組貿易業等吉物に勝の日

▼甚しき臭味を忍びて、肝油を飲用すべき時代は去れり▲
▼咀嚼して美味無臭、容易に定量の肝油を食用し得べき▲

河合龜太郎氏創製

# ◎肝油ドロップス

本邦及英米國政府 專賣特許
滋養強壯料 肝油ドロップス

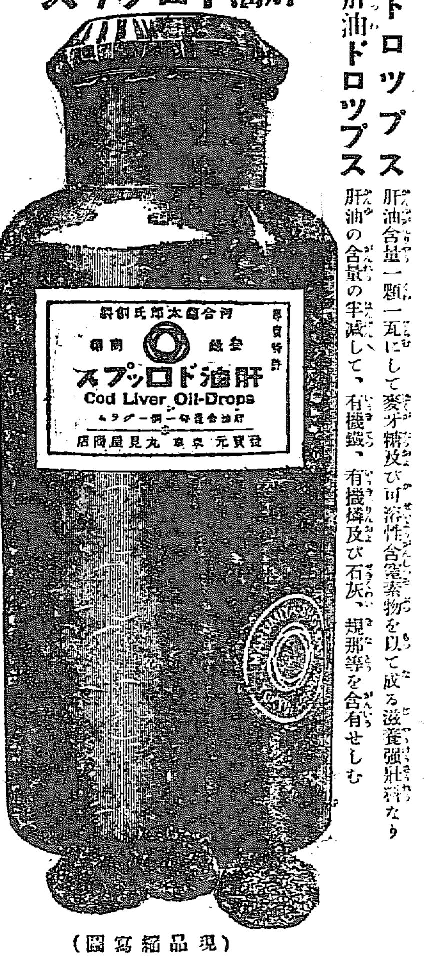
◎肝油ドロップス 肝油含量一顆一瓦にして麥芽糖及び可溶性含窒素物を以て成る滋養強壯料なり
◎複方肝油ドロップス 肝油の含量の半減して、有機鐵、有機燐及び石灰、規那等を含有せしむ

肝油含量一顆一グラム
一日二回乃至三回服用

| | |
|---|---|
| 五歳以下 | 一回一顆又は二顆 一日二顆乃至四顆 |
| 十歳以下 | 一回二顆又は三顆 一日四顆乃至六顆 |
| 十五歳以下 | 一回三顆又は四顆 一日六顆乃至八顆 |
| 大人 | 一回三顆又は五顆 一日八顆乃至十五顆 |

用法 そのまゝ菓子の如く食すべし、又は錠を以て細片に剪り冷水或は微温湯にて嚥下にするも妨げなし

定價 五十顆入一壜金七十錢 百二十顆入一壜金一圓卅五錢 復方百顆入一壜金一圓卅五錢




(現品縮寫圖)

(Patented in Japan, Great Britain and U.S.A.)

MITSUWA COD-LIVER OIL DROPS.

MITSUWA COD-LIVER OIL DROPS ... 120 in a bottle ... ¥1.20
MITSUWA COMPOUND COD-LIVER OIL DROPS. 100 drops in a bottle ... ¥1.20

Mitsuwa Cod-Liver Oil Drops are round-candy drops of small size, fragrant and pleasant to the taste. Each contains a guaranteed amount of one gram of Cod-Liver Oil. In its nourishing quality, taken without taxing the stomach, taken in so small a size, the Mitsuwa Cod-Liver Oil Drops far surpass any other cod-liver oil preparations on the market.
— Mitsuwa Compound Cod-Liver Oil Drops differ in that they contain one-half amount of Cod-Liver Oil and are Supplement with albumen, and a further addition of the effective element of iron, lime and phosphorus quinine.

肝油が一般の虚弱者、羸痩者、結核性素質者、營養不良に起因する眼病患者、腺病質の兒童等に對し治療上缺くべからざる滋養劑として、内科、眼科、小兒科等の專家に處方せられ、卓效を奏するは、醫療上の定論なり、然れども其特有の臭味、甚だしく不快なるが故に、其服用を嫌忌せらるゝを慨し、河合氏多年苦心研究の結果、形狀洋菓ドロップスに似て、麥芽糖及び可溶性の含窒素物を基礎とし、一顆に精製純良の肝油一瓦宛を正確に含有し、乳化完全にして、分布極めて細密、美味無臭にして而かも容易に食用し得べき『肝油ドロップス』を創製す、本品は從來の肝油諸製品に優り、服用に面倒なる手數、携帯の不便、變敗の迅速なる等の缺點なく、殆んど本質の肝油たる事を忘れ、兒童は勿論何人も好んで食用し得ると、酷暑の候と雖も、冬季と異る事なく、消化吸收の作用頗る良好なる事とは本品の最も優秀なる特色とする所なり

## 如斯人は滋養料◎肝油ドロップスを用ふべし

一、顔の色が蒼白くて艶無き人
一、皮膚の紋理が悪くザワ〳〵してゐる所謂ぬれ性の人
一、身體一般に貧血してゐる人
一、是といふ病氣はなくても何と無く弱く感冒に罹り易い人
一、筋肉の目立て痩せてゐる人
一、手足が冷て寢られぬといふやうな纎弱い人
一、色が蒼くて肉痩せ、而して活潑ならぬ所謂腺病的の小兒
一、頸が細長く、頬が痩け、咳嗽や痰の人並より多く出る所謂結核素質のある人
一、筋肉を太らせ、無病壯健に元氣よく活動せんとする人
一、身體一般に脂肪氣の少き人
一、顔や手先きを滑こくし度人
一、產前產後の滋養を計らうとする人

## 如斯人は滋養料◎復方肝油ドロップスを用ふべし

一、骨の故障即ち佝僂病骨軟化其の他種々の骨病ある人
一、營養不良から來れる眼病、例へば夜盲症や網膜貧血に罹れる人
一、腺病(瘰癧)に罹れる小兒
一、發育不全の小兒。
一、貧血症になつてゐる人
一、肺結核其他結核的の病に罹つてゐる人
一、腦神經衰弱、ヒポコンデリー、ヒステリーなどの神經病に惱まされてゐる人
一、陰萎、遺精などの生殖器神經衰弱に罹れる人
一、病後の衰弱を速く回復したい人
一、心臟病に罹れる人
一、右の外種々の病に罹つてゐる人の滋養物として理想の良食物である

▲賣捌＝全國到る處の藥舖。洋酒食料品店。化粧品店。小間物店▼

本舖 ミツワ石鹸 ミツワ家庭藥 規那鐵葡萄酒 肝油ドロップス 御園化粧品

發賣元 ◎ 登錄商號 丸見屋商店
東京市日本橋區橘町四丁目 藥劑、滋養品、石鹸、香粧品、小間物問屋
電信略號◎ミヤ……振替口座東京七一〇番 營業部電話特長浪花三〇、四四八、四四九、四五〇番

月刊商報發行送呈

板硝子各種 英國製壁紙 入荷 釜山本町 ㊤村上商店 電話五番

青竹入荷 釜山港 島末材木店

CONFECTIONARY WINE PROVISIONS DEALERS 英米洋皮輸入 菓子果物 ミトヤ商店 電話164

カーバイド ダイヤ印焼酎 アルコール 福榮商會 釜山 電話[illegible]

釜山本町三 近藤商店 電七六八 振三五八
日鮮雑貨 鍋釜金物 卸問屋

洋酒罐詰 銘茶 石油 煙草 卸問屋 釜山辨天町 ビワコ屋 ® 長距離電話 七〇五 (月刊物價表發行)

内外雑貨卸問屋 〒 近江屋支店 釜山本町二丁目 電話八〇二番

於施政五年共進會 銀牌受領 製造販賣 朝鮮勸農商會 釜山本町二丁目

雑貨卸商 釜山辨天町 明治屋本店

味の素 朝鮮特約店 洋酒罐詰 商 あづまや商店 釜山辨天町

釜山 [illegible] 名產 商店

京城日報
廿九日 朝刊（夕刊と合せて八頁）

廣告料　發行兼編輯人 奥田直毅　印刷人 小川三之介
發行所 京城太平通一丁目 合資會社 京城日報社

# 京城日報
## 墺洪國の前途如何

墺洪國老帝殂落し、皇太子位に即き、カール第一世と稱す、歐洲大戰役最中に此事あり、世間これより墺洪國の前途如何を氣遣ふもの多きは固より其處なり。

墺地利と洪牙利とは固と二個の獨立國なり、老帝は千八百四十八年墺地利皇帝の位に即き、千八百六十七年洪牙利王の位に即く、二國を合して一大國家を形くりたるは、則ちフランツ、ヨセフ老帝の一身の地位に基くものに外ならず、即ち是れ墺洪國を指して人的合同國家と爲す所以なり。然るに前皇太子フエルヂナンドは、皇室法に背いて其配偶を定めたる爲めに、其所生をして君位を繼承せしむる能はず、皇室の憂慮國民の不安は言ふに及ばず、皇太子亦不平の念に堪へず、或は獨逸皇帝と將來墺洪國を改造するを密約し、或はクロアシア人の三國鼎立運動、即ちクロアシア其他南スラブ民族を合して一國を形づくり、墺地利洪牙利及び此新國家の三者同等の地位に立ちて、連合し一大國家を成立すと云ふ運動に同情を寄せ、最も塞爾維人の大塞爾維運動に反對したるために一昨年六月二十八日サラエヴオの兇變に遭へる次第にして、墺洪國皇室は悲劇に續くに悲劇を以てしたるものにして、此最後の悲劇は則ち此度の大戰役の起端なり、或は言ふ宮廷大官が窃かに皇太子を除くの陰謀を企て故らに其を危地に驅り、一切の警備を弛めて兇漢を誘び、之を弑せしめたりと、而して老帝は實は戰爭を欲せず最も平和解決を求めたれども內に主戰黨の躍起運動あり、外に獨逸皇帝の壓迫甚だ急なるあり、此に心ならずも塞爾維と事を構ふるに至れりと、新皇太子即ち現皇帝は、フエルヂナンドの個人的弱點及び累なしと雖も、其の獨逸皇帝の支配の下に立ち、及び主戰黨武斷派の爲めに擁せらるゝの狀は則ち相同じ。十九世紀を通じて墺洪國は最も戰を好むの國なりと雖も、毎戰必ず失敗を招かざるなく、千八百六十六年普魯西と戰て敗れたる後は、常に獨逸の下風に立ちて其指呼に從ふの實ありと雖も、其[illegible]則ち論ずることなく、有らゆる[illegible]に投じて其領土を擴め東歐羅巴及び地中海に其勢力を張らむとし、其國內に數十の異人種を納れ內部甚だ困難なりと雖も此好戰心と此領土慾とあり以て能く其結合を保ち來るものに過ぎずして、其過去の事既に然り其前途亦之に由りて推すべきなり、過般露軍トランシルヴアニアに進入するや、墺洪國民忽ち單獨講和を求むるの情あり、獨逸は則ち其を失ふを憂へて、ヴエルダン攻擊を中止し、西部戰線を退縮して其兵を東方に移し、全力を注いで露軍及び羅馬尼軍を攻擊し、今方に羅馬尼國內に席卷せむとす、獨逸の志羅馬尼を獲て自ら補ふにあるや論なしと雖も、其憂ふるところは寧ろ墺洪國の離れたるにあり、是れ其西方を犧牲にして、東方に努力する所以にして、刻下の羅馬尼戰線に於ける獨逸軍其功を失はゞ、墺洪國は到底單獨和を乞ふの外なし、然れども萬一にも羅馬尼にして敵手に落つるあらば、墺洪國は永く獨逸の器械たるに甘んず可し。

## □大正の青年と帝國の前途
### ―蘇峯先生の近著を讀む―(四)

中島生

『大正の青年と帝國の前途』が如何なる目的に於て執筆せられたるかは既に著者の言を引いて之を述べたり而して本書は如何なる內容を有するか。

著者は本書を以て『新日本之青年』『將來之日本』の改造なりと謂ふも、實は改造よりは寧ろ、著者が三十餘年間蓄積せる大抱負と、大經綸とを吐露して、我日本帝國の前途に橫はれる緊要の問題を解釋せるもの也。』即ち本書は、先づ最初に大正の青年を總說し、更に維新後の日本に至り、及び、溯りて維新前の日本に轉じて我が日本に於ける帝國主義の歷史を語り、明治時代に於ける思想及び生活の變遷を敘し、茲に現在の日本に說き著し。更に我が帝國の使命を指し、更に我が國際的關係ある列强の現狀に接觸し。將來に對する我が國民の大理想、大抱負、大努力を說示し。最後に我が大正青年の責任を論じて、以て筆を擱せり。著者は立言の趣旨につき曰く『世界的大戰爭は或者は豫期の如くと云ひ、或者は豫想外と云ふも、何れにしても非常に延長せり。而して此の大戰後の形勢は奈何。記者は之を思ひ、之を思うて、中心自から安ずる能はず、敢て國家百年の大計の爲めに、貢獻せんと欲し、茲に明治二十七八年役後に精神的の重荷たる、前二書改作の猶豫す可らざるを感じ、猛然として其稿を起せり』と。即ち著者が社會の木鐸として、邦家を憂ふの赤誠は、卓然時流を超越して、秋霜烈日の筆、直ちに人心を刺戟して、國民の趨嚮を指示せんとする、一片耿々の大志能く之れを窺ふべく。殊に著者が『人心の同じからざるは其面の如し。予、人に同じきを强ふる能はず。人其之れを予に强ふるを得ん哉。されば予は一々此に向つて討論するの煩に服せざる可し。反對も隨意也、贊成も隨意也。唯だ希ふ所は、大正青年諸君の一讀を請ふに在り。自ら新日本の青年として天下に呼號して以來、既に三十餘年を經、復た自ら青年たるの特權を以て、諸君と相對する能はずと雖も、其志は尙ほ青年の彈力を失はざらんことを期する也』と言ふに至りては吾人は彼の獨逸の哲人フィヒテが、第十九世紀の初葉、祖國を想ふ熱誠の餘り『獨逸國民に告ぐ』の雄辯を以て、獨逸國民の責任を喝破して、青年國民を警醒したるの慨あるを想ひ、而して更に一段の積誠を見ずんばあらず。

蘇峯先生其志は青年の彈力を失はざらんことを期すと云ふ。若し先生の齡を數ふれば、既に半百を過ぐ。若し先生の頭髮を見れば、早や殆ど白髮也。然れども、其の益々魁偉なる風貌を見よ。爛たる其兩眼、血氣充滿せる其の顏面、活力橫溢せる其の軀幹は、直ちに『力』そのものを表現せるに非ずや。其の『力の福音』の宣傳者として、內容外容俱に充實せる、先生に接する者の直ちに首肯する所たらむ。其の平生の勉强振りは、實に現時青年血氣者と雖も、殆ど企及し能はざる所に屬す。其の精力に於て、其の我慢に於て、先生尙ほ青年たるの特權を有す。先生自ら稱して『尙ほ青年たるの彈力を失はざらんことを期す』と云ふは、到底先生の謙辭たるに過ぎざる也。茲に於てか『大正の青年』論一篇、老人の青年論に非ず。青年の青年論たるを否む能はず。其の文字の生々潑々として、紙上に躍動せる、素より當然にして、一たび之を讀む、天下青年の血爲めに沸騰せざらむとして能はざるべき也。

## 羅南一瞥(一)

西海生

### △會寧より羅南へ

▲會寧を九日の午前十一時頃坐つても好い框附のトロで出發した、幸ひ平田憲兵大尉と今井鮮銀店長が都合三四枚の毛布と二枚の座蒲團を貸して呉れたから、下に座蒲團やら毛布やらを厚く敷き、又頭の上より毛布を引き被つて乘り込んだ、幸ひ昨日程の風がなく、然も其の風は追ひ風だつたから前日の苦艱と反對に今日は比較的氣樂に走る事が出來た

▲途中中島停車場附近から一人の土方體の醉漢が、記者の拒めるに拘はらず、亂暴にもトロ押しのヨボを止めて無理に無錢で記者の背後に乘り込んだ、對手は土方然も醉つてゐる無理に突落して喧嘩をするのも馬鹿々々しいと云つて乘客二人になりし爲めトロが遲れ、午後五時若坪驛の列車に間に合はなくては大變だと思つてゐる間、偶然記者は方便の虛言で此の土方を走らせた

▲それは醉漢が無理に乘り込んで三四分後の事であつた、彼は記者の顏から被つてゐる白毛布に目をつけたと見て『ナーニ茂山嶺の麓までゞ好い、只の二里餘りだ、トロの速力が遲れたつて知れてらあ……』とブツクサ云つてゐたが、急に『旦那は何ですかい憲兵隊のお方かね』と來た

▲醉漢は平田憲兵大尉貸與の毛布をそれと知つたのらしい、で氣轉に鈍い僕も、先の時間が急ぐから『あゝ憲兵隊に用があつて行くんだよ』と答へてやつた、すると土方先生『そんな譯でしたか、イヤ失禮致しました』と云ひ〳〵すぐ飛び降りた、記者はホッと息を吐いた、姑らく行つて振り返ると、彼れは遙か後方よりトロの線路をポト〳〵歩いて來る

▲『方便の噓』急場とは云へ、餘り穩やかではなかつた、尤も此事は後で水間憲兵中佐と鏡城で話して、其の作事の默諾を得たから、記者の罪は[illegible]されたものと思ふ、陸軍所有松本組經營の輕鐵にも途中で、こんな暴漢が横紙破りに乘り込む、會寧往復のトロで氣味の惡く、厄介なのは獨りトロ押の鮮人支那人のみでないやうだ

▲歸路の茂山嶺では、記者が下り阪を下りやうとしたけれど、操縦のヨボ等は下車するに及ばぬと止めた、で多少危險だが臺車の上に坐つてゐた、それは聊さか痛快な位ゐ速かつた、臺車は凄じい速力で線路を下つた、往路上りに約二時間を要した茂山嶺を、下りは僅々二十五分で麓の蒼坪まで走り著き漸く蒼坪驛發午後五時發列車の間に合つた

▲其の夜の八時淸津着一泊、翌十日早朝淸津發の行のトロに乘つて、軍營地の羅南に向ふ、約三里餘の道に二時間を費す、線路は殆んど終始輸城平野の海岸部を走せてゐるから高低がない、而して若坪會寧間と異なり避難線が多い爲め、先方より貨客積載のトロが來ても降りなくて濟む

▲風は相變らず强い日で、寒さも嚴しかつた、羅南方面より石四十個もすると云ふ鹽元豆を滿載したトロが陸續する、羅南兵營の甍が遠く光り出して、仲々近づくまでに隙がいる、それでも十一時近く漸く羅南に入た

## 日報詩壇

○寄波多野日東在大阪　安東　拳雲

壯心未盡感前塵、設託詩書白髮身、勿笑依然窮措大、宵宵夢到浪華津。

評曰 溫厚人、詩亦溫厚。

○江川餘病咽喉入龍山鐵道病院一行作　富澤　雲堂

鐘歇雞搖漏盡更、枕燈徙照病床明、吟腸枯渴酒心擾、夢割鱸魚傾巨觥。

評曰 無聊之狀寫出。

○次雲堂富澤詞兄見寄韻　望月　桂軒

春曉登臨古海城、落花風裏聽濤聲、吟行携手又何日、追思常年不耐情。

公餘乘興據詩城、長短吟成金玉聲、醒覺塵仙窟中夢、風流以外見眞情。

評曰 二首自眞情來、不關彫琢也。

○憶盆田學鷗歸南　齋藤　三寅

雲漆白頭山絕巓、孤鞍吟雪氣昂然、料知奴背詩囊重、何日相迎話酒邊。

評曰 一二壯勁。

## 日報歌壇

仁川　宮部紀世子

■藍色の秋を湛へし入海を街の家並の上に見出しぬ

大阪　中村　翠宇

■世を去りし吾が友の前に赤き花默して咲けり靜かなるかな

巨文島　西本　香洞

■うたけて競うつなる舞姬の衣摺れさやかに秋深き香

石岩　涼光

■廢宮の階に赤き夕日落ち黑き枝に朝鮮鳥啼く

琵琶を彈じ人の興ずをよそにしてため息をつく君と我かな

屋根屋根の瓦に描きたる古きを語る面白き顏

兩忘庵道場　釋宗活師新著
# 悟道の妙味
四六版布裝函入美本　定價九十錢　送料八錢

苦境に在りて樂天の妙所に到り、安逸の中に悟入の玄妙を味ふ、冥に之れ人生の快樂境ならずや。宗活師茲に世情を採り人心の微情を撥き禪機を徹して悟道の妙味を說下せらる。苦境を脫せんとする士、人生に安心を求めんとする士は來りて此寶鍵を握れ

禪門の二名著
釋宗演老師著　宗演禪話 新版
菅原時保老師著　禪窓閑話 再版
各四六判布裝美本　定價九十錢（送料八錢）
南天棒老師著　一喝禪 三版

京城本町　電話八四六・八〇二番　振替二五七三番　大阪屋號

結核專門　古賀病院

京城簿記專修學館　簿記生徒募集
卒業後は銀行會社商店等へ確實に就職紹介す　要規則二錢　京城明治町

# 學生 十二月號
定價 一部二十二錢 半年分一圓十四錢(税共)

論評題目既に奇拔也。論評更に警拔！本年掉尾の壯觀をして居然誌界を睥睨す!!

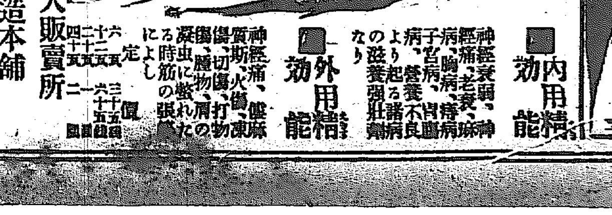
主筆 大町桂月
▼野心を懷ける青年よ……後藤內相
▼馬來半島の護謨王　本多林學博士
▼ヴエ要塞の猛將……阪谷男爵
▼一日一敵　中村春二
◎富を得る法……杉岡博士　◎大英國の將來……大隈博士
◎現代ロビンソン……藤田學士　◎聖路易野球戰記……橫井春野
◎木葉の散る理……山內博士　◎大西郷に睨まれて上村大將
◎歲晩と青年　棚橋一郎　◎英文クリスマスツリー　吉岡教授
◎學生愛吟集……佐野文莊　◎記者學者戶籍帳　千駄木町人
◎祐天惜敗……　◎寒暖計で天氣豫知　コツクス
◎日本中學と杉浦先生　桂月　◎學生新聞　◎新案懸賞其他
▼主に殉じた獨逸軍犬　獨逸飛行將校

東京神田　富山房　振替一〇五

特許ウエバー式（テーパー型）鐵筋コンクリート煙突
外觀壯美、施工迅速、堅牢無比、工費低廉高價なる鐵製に勝る
大分縣佐賀關久原鑛業株式會社製煉所に於て築造中なる世界第一の鐵筋コンクリート煙突
高サ地上五百五十呎、底部九十五呎　頂上內徑二十六呎三吋
目下四百五十呎まで築造進涉し十二月中全部完成す
（カタログ進呈）
特許ベテスタル式基礎工事　鐵筋コンクリート一般工事　鐵筋コンクリート用鋼材販賣
特許ウエバー式鐵筋コンクリート煙突
東京市麴町區八重洲町一丁目一番地　東洋コンプレツソル株式會社　電話本局二八〇六番

# 金井教授在職二十五年記念 最近社會政策
最新刊　內容目次
消費稅と社會政策 河上博士◉我國に於ける土地所有權の移動 高岡博士◉米國の新海員法 桑田博士◉小學兒童食事公給問題 神戶博士◉獨逸社會黨に於ける硬軟兩派の衝突 伊藤ドクトル◉農事勞働者の保護 山本教授◉普國政府と產業組合 河田學士◉獨逸社會政策的保險の由來 內田博士◉特殊部落問題 積稅を論ず 山崎博士◉戰時の英國婦人勞働問題 工藤博士◉貧富問題 小野學士◉中等階級政策に就きて 栗津博士◉我國の相續稅を論ず 河津博士◉造兵制度に就て 田島博士◉社會問題の調查方法たる「アンケート」に就て 經營を論ず 矢作博士◉東京に於ける二十職工家計調査 渡邊學士◉生存權の社會政策 福田博士◉產業組合の戰後の日本に關する課役制度 松岡博士◉日本之宗教觀 戶田博士◉戰後の日本 高野博士◉米價調節と朝鮮米 下村學士◉アーノルド、トインビー 武藤學士◉戰益稅論 小川博士◉道路 山內學士 新渡戶博士
全一冊　上製正價金貳圓　並製貳圓廿五錢　送料內地金十二錢
東京京橋 有斐閣（振替東京三七〇番）

人參直引大販賣所
人參エキス　滋養藥　朝鮮名產　藥飴　一切製造本舖
京城本町一丁目　津村兄弟商會　電話一四八〇　振替京城一三五〇番
支店開設
京城本町二丁目　電話二五一番　京城バサー二階賣店
龍山元町二丁目　龍山支店
京釜線大邱驛前　大邱支店
慶尙南道釜山大倉町　電話三九四番　釜山支店
其他全道の藥舖にて販賣致居候萬一御注文次第速に發送可仕代金は振替にて本舖に依る事が最も安全且つ御便利に候
朝鮮總督府許可




內用精　効能　神經衰弱、神經痛、老衰、胸病、痔病、子宮病、胃腸病、病後の營養不良、諸病より起る滋養强壯
外用精　効能　神經痛、寒冷麻痺、斯傷、火傷、打撲傷、腫物、切傷、凍瘡、時虫に螫れた
定價 六十錢 二十錢 四十錢

此廣告は天下の銘酒
白鶴
特約店　桑田支店（平壤）

安全第一＝生命保險
生命保險＝第一生命
第一生命＝安全第一
說明書御申込次第贈呈仕候
電話本局一七三六
第一生命保險相互會社

新築中の本社　東京京橋區南傳馬町
現營業所　東京日本橋區通三丁目

# 露皇帝羅馬尼出陣

丁抹來電＝露國皇帝は羅馬尼の陣地に向け出發せられたり(倫敦電報)

# 獨逸羅國方面戰勝公報

獨逸公報に曰く、ビーモンタヌル東北に於ける襲擊に依り獨軍は英國兵百六十一名を捕虜としたり獨軍はアルト平原に於けるカバルシア其他諸陣地の優れるものを占領したり羅軍は今猶依然として頑强に抵抗しつゝあるもアルト以東の諸街道は避難者及び其荷物貨車等を以て雜沓し居れり獨軍の一部隊は既にダニューグ河を横斷して目下アレキサンドリアの前面に達れり我が他の部隊は之と接觸を保ち居れり(倫敦電報)

# 在羅國獨軍の蠻行

露都在留の一米人は獨軍が羅馬尼の西部に於て慘忍の行爲を逞ふしつゝあるを報ぜり(倫敦電報)

# 羅軍砲門撤去承認

アムステルダムより倫敦に達したる報道に依ば獨逸通信員はファルケンハイン將軍の司令部より打電し羅馬尼軍は重砲を始め砲門全部を首尾好くクライオヴァより撤去し得たる事實を承認せり([illegible]電報)

# 奉天公民會の決議

奉天省公民會は二十五日大會を開き日支交渉案件中警察權委任案を絶對に拒絶する事に決し二十七日代表者を選定したるが右代表者は近く北京に赴き反對運動を開始すべしと(奉天特電)

# 長春寒氣酷烈

長春は二十六日以來寒氣頓に加はり北風凛烈膚を裂くが如し(長春特電)

# 禁輸の影響

大藏省當局者談

時局の爲め財界は變調に在りと人毎に之れを口にするも今日の此の狀態は戰時としては常態にあるなり預金狀態貿易狀態物價の高低皆戰時中斯くあるべき筈なり物價騰貴し下層民困窮する者少からざるべしと云ふものあり必ずしも然らず時局の爲め彼等下層民の仕事甚だしく增加し殊に戰事に關係ある事業は其の多忙に連れ彼等勞働者の收入は頗る增加し寧ろ有福なる狀態に在るが如し此の傾は外國に於て益々明かなるが如く英國あたりの勞働者の收益は吾人の豫想外にあるが如く聞き及べり從つて戰事中に係はらず各國の景氣は何れも良好なり日本人は外國の一輸入禁止令位に驚くに及ばず譬へ如何に禁止令を以て輸入を防がんと欲するも決して防ぎ得ざるなり彼等の景氣に連れて他の代品を續々として輸入せざる能はざる結果となる之れ明かに貿易統計の示す所にして初め英國は日本より贅澤品の輸入禁止をなし一時其の爲め日本の被りたりし打擊少からざりしが昨今は寧ろ禁輸せられし其の當時以上の輸入を日本よりなしつゝあるなり大勢の向ふ所已むを得ざるなり米國は某々品目に對し更に關稅引上げをなさんとすと傳へらる假令其の關稅は如何に引上げたりとも輸入をして杜絕せしむる事は到底なし能はず彼等は其だけ高價の品を需要する事となるに過ぎず我等は一意專心日本の製造工業を發達せしめ安價の製品を出すに努力すれば足れり(東京)

# 金融界繁忙

鮮內財界の大勢

朝鮮金融界の大勢は九月頃より漸次緩漫の域を脫し幾干か繁忙裡に入らんとする趨向ありしが十月中の朝鮮各金融機關の預金貸出現況を見るに春來八月頃まで繼續せし預金增貸出し減の傾向は一轉預金減貸出し增に變化し漸く金融繁忙の狀勢を數字の上に現はし來れり今當局調查十月末鮮內各銀行預金表を見れば左の如し

| 銀行別 | 預金高 |
|---|---|
| 朝鮮銀行 | 一六、七三二、九九〇 |
| 農工銀行 | 七、八四五、二一七 |
| 普通銀行 | 一七、四四一、七一四 |
| 合計 | 四二、〇一九、九二一 |

乃ち四千二百零一萬九千九百圓にして之れを前月末の四千二百五十八萬八千四百圓に比すれば總額に於て五十萬圓の減少を示し然して之れを地方別に檢すれば流石に出穀期に入れる實狀は中部及び南鮮地方に於ける預金の減少に現はれ居れり其の減少數字を見るに

| 地方別 | 預金減少額 |
|---|---|
| 京城仁川地方 | 二一七、八六九圓 |
| 釜山大邱地方 | 三四二、五一三 |
| 群山全州地方 | 一六七、〇七六 |
| 合計 | 七二四、四五八 |

右三地方にて七十二萬四千餘圓の減となり居れど一方平壤鎭南浦地方元山淸津地方木浦地方は尙ほ繁忙の度加はらず預金は小額ながら增加し居るに付結局差引五十萬圓の減少となり居れり而して貸出しを見れば左の如し

| 銀行別 | 貸出增加額 |
|---|---|
| 朝鮮銀行 | 二三、四五八、一九一圓 |
| 農工銀行 | 一一、四〇一、四九九 |
| 普通銀行 | 一八、一六五、三六一 |
| 合計 | 五三、〇二五、〇五一 |

右合計貸出額を前月末の五千零十一萬二千二百圓に比すれば乃ち約三百萬圓の增加となり鮮內各地方共何れも多少の貸出し增加を示し居れり而して中部及び南鮮地方に於て其の繁忙の度の進めるを知り得各地方の增加額左の如し

| 地方別 | 貸出增加額 |
|---|---|
| 京仁地方 | 一、〇五〇、二五八圓 |
| 平南地方 | 四四八、九九二 |
| 慶尙地方 | 五[illegible]三、九三八 |
| 群山地方 | 三八七、九四六 |
| 木浦地方 | 三二五、一一一 |
| 元山地方 | 一一三、五一三 |
| 淸津地方 | 一〇七、九八七 |
| 合計 | 二、九五七、七四七 |

尙ほ十一月に入つては新穀の出廻り船腹不足なるに拘はらず旺盛を呈し又鮮銀券の增發膨脹相踵ぎつゝあるに付月末の現計は一層此の傾向を明らかにし居るならんと

# 麻布事業の發達

當局の獎勵と當業者の自覺
支那麻布の輸入逐次減退す

麻織物は朝鮮に於ける重要物產の一にして全道到る處殆ど之れを產せざるなく殊に忠淸南道は古來優秀なる苧布の產地として、慶尙北道並に咸鏡北道は麻布の特產地にして其の產額亦た尠からず、然れども取引上の惡習慣は製品の粗製を誘致し價格混亂して漸次支那麻布に壓倒せらるゝの狀況なりしを以て總督府に於ては夙に其の改善に著手し先づ忠淸南道產苧布の改良を計畫して技術員を配置し第一に尺幅の統一次で製織法の改良を巡回指導せしむる所あり。其の

▲製品の販賣 に就ては明治四十四年中有力なる商人現はれ在來品に比し高價を以て買收に應せむとの希望ありたるを機とし、從來弊害最も甚だしかりし居間の手を介せず地方金融組合に於て僅少なる手數料に依り之を蒐集して以て商人に交付するの手續を爲し更に原料苧麻の共同購入をも取扱はしめ、常業者に對して低廉なる原料を購入せしむるの便を開く等種々施設する處あり。茲に於て當業者は漸次改良品織成の有利なるを會得し之れに從事する者頗る多きを加へ改良事業の成績亦た見る可きものあるに至れるが尙ほ一層改良の實を擧げむが爲め地方の當事者及び同業者は

▲當局の勸獎 に基き大正三年其の主產地たる舒川、扶餘、保寧、靑陽の各郡に苧布組合を設け尙ほ各組合相互の氣脈を通じて業務の統一を圖らむが爲め忠南苧布組合聯合會を組織し以て製品の檢查、製品の共同販賣並に原料の共同購入等を行ひ地方廳は年々多額の補助金を交付して之れを援助せるより事業者々進捗し成績甚だ良好を呈せり。苧布改良事業の成績斯の如く顯著なるを以て慶尙北道及び咸鏡北道產麻布に就きても亦た其の改良增殖を畫策し慶尙北道に於ては大正二年安東に麻布改良同業組合を設け忠淸南道同樣

▲尺幅の統一 と織成法の改良を獎勵指導し又た咸鏡北道に在ても大正三年各郡に設立せる約契規約中に麻布製織に關する規定を設けしめ製織方法及び尺幅を一定し且つ製品の檢查を行ひ之れに合格するにあらざれば販賣することを得ざることゝなし之れと同時に他方に於ては專ら改良器具の普及を圖りつゝあり、其の效果共に見る可きものあらむとす而かも前記三道に於ける改良事業の成績は延て他地方に於ける一般當業者を刺戟せること尠からず何れも之に呼應して以て鮮內の苧、麻布業界は追年改良發達の事績を擧げ一時旺盛を極めし支那麻布の輸入は年と共に減退の傾向を示せり今明治四十四年中に於ける朝鮮苧、麻布の產額並に支那麻布の輸入額を大正四年中のそれと對比するに朝鮮

▲麻布の產額 に在りては四十四年には百十三萬二千百六十七疋其の價額二百二十萬五千餘圓に止まりしもの大正四年には百六十八萬一千九百三十九疋、價額二百九十八萬五千餘圓を算するに至れるに反し支那麻布の輸入は四十四年に在りては六百三十四萬一千餘碼此の價額百三十萬一千餘圓なりしもの昨年には五百三萬九千餘方碼價額百十萬五千餘圓となり比年減退の趨勢に在り殊に本年に入りては麻布事業著しく進展の傾向あるを以て其の產額の增進は更に顯著なるものある可く支那麻布を驅逐するの日は敢て遠き將來にあらざる可し

# 玄米調製獎勵

從來鮮人農民は米の收穫期に際し單に籾の儘として賣出し之れを玄米に調製するは更に又專門家の手に依りて行はれつゝありしが玄米調製迄は之れを農家の作業とするの至當にして又之れを農家の手に行はしむれば米の移出上頗る利便ありとし總督府當局者も之れを獎勵する所ありしが京畿道各郡にても自然其の必要を認め一部實行せるものありと右に關し今回總督府より京畿道廳に獎勵金一千五百圓の分配ありたるを以て近く南部各郡中一箇年五十石以上の玄米調製を爲す箇所に對し石拔玄米調製具五十五組配布することゝなり孰れも本月末頃發送の筈なり石一組とは籾磨臼一個篩箕一個萬石一個にして調製者は之れに要する附屬物を購入せば完全に作業を爲し得べしと

# 水產界近況

▲西海岸方面 西海岸方面の不漁

西海岸方面に於ける昨今の一般漁況は例年の如く季候の變遷に從ひ潮水の冷却すると共に沿岸魚族も溫暖の區域に移轉し來れるを以て漁獲物は漸次減少を來し自ら閑散の季節に入れるが本年は秋以來虎疫流行の爲め漁船の大部分は例年に比し二潮時其の引き揚げを早めて南海に移擁又は影響したるを以て沿岸各市場の水揚高激減に伴て魚價暴落を來し十一月上旬に亙るも尙ほ全く其の影響を脫する能はず、市況は近年稀なる打擊を蒙り從漁者及び一般水產業者の窮乏慘澹たるものにて前年度の秋季同時期に於ける漁獲の半額にすら滿たざりしといふ、而して

▲土著の漁 業は多くは已に漁業を休止し明年漁期までは操業せざるを以て附近在住內地人向き需要の鮮魚類は釜山、馬山、統營、三千浦、元山方面より日々移入を仰ぎつゝある狀態にて各市場とも一回三四箱の入荷を見るに至り、又た新鮮向き鹽干魚類の鮭、鱈、目刺、煎子等補給輸移入あり且つ鮮人向き鹽干魚及び明太魚も原產地方面より移入を認めたるも這は例年に比し時期尙早の爲め入荷類多からず、殊に亞米利加鯟の入荷は歐洲戰亂の爲め船腹不足運賃不引合の結果皆無の狀況なるより鮮人向き鹽干魚類は例年に比し市價二三割方向上の模樣なりと

# 淸津近海豐漁

客月淸津近海は近年稀有の豐漁にして魚市場水揚高十四萬九千九百五十五貫價格一萬三千二百三十五圓に達し之を前年同期に比すれば約六千圓前月に比するも同額以上の激增を示せり重要魚は鰈の五千三百二十三圓を最とし鰤一千六十七圓、鯖八百八十四圓、鯡八百十四圓、烏賊七百八十二圓其他鰆、鯨、鮑等にして烏賊は本年初めて斯る多額の漁獲ありたり(淸津)

# 屠獸場工事入札

京城獨立門外なる京城府直轄屠獸場は過日土工々事の入札を行ひ目下工事著中なるが更に進んで建築工事入札の公示をなし十二月二日頃入札を行ふべし

# 教育憲兵卒業式

京畿道憲兵隊本部にて去る八月より教育中なりし補充憲兵上等兵十五名は二十八日卒業式を行ひ午後一時より教官並に市內の各隊署長一同參列の上隈部大佐より一場の訓示ありたり

# 露國視察報告會

曩に亞細亞露領各地に於ける商工業狀況並に鮮露貿易に關する視察を遂げて歸任せる大村商業會議所書記長は二十八日午後四時半より會議所樓上に於て報告會を開きたるが先づ順路を說き次で露國に於ける日本商品の信用失墜と對露貿易從業者の奮起を促し、ハルピンより漸次膨進の前後により各地の狀況日露支商の朝鮮生產品に對する所見今後の日露貿易等を詳細綿密に詳述し六時半頃散會せしが會議所議員鐵道稅關鮮銀朝郵の調查方面擔任者各新聞記者市中商人の傍聽多かりき

# 東拓總裁理事歸期

臨時總會其他の要務を帶び東上中なる東拓總裁石塚英藏氏及び高瀨理事は各般の要務未だ終らざると又東京大阪兩所に於ける披露等ある爲め來月上旬相前後して歸任の筈なるが日時猶確定せずと

# 警務總長の招宴

既報の如く古海警務總長の京城記者團招待宴は二十八日午後六時より千代本に於て催されたり來會者は主客共に二十餘名席定まるや古海警務總長の簡單なる挨拶あり次で阿部本社長來賓一同を代表して答辭を述べ終つて宴に移り主客胸襟を開きて歡興を恣にし十時過ぎ散會せり

▲加藤鐵治郎氏(鴨江日報社長) 二十八日夜退京
▲朝比奈信太郎氏(實業家) 二十八日夜入京朝鮮ホテルへ
▲中內啓二氏(步兵第七十九聯隊附少佐) 二十八日夜入京

# 露領行記

□復り路 (第廿九信) 琴花

○釣すれども綱せず弋すれども宿を射ざるは物の愛を知る仁者の掟とかや、猛きばかりが勇者の作法にあらず、他の戰ひに急なるを奇貨として粗製を賣り濫造を鬻ぐ奸譎のやから、一時の暴利は攫みつらむ、潤むべし墮獄の因具さに備はりて九族長へに福を得る理あるべからず、善人は吾れ得て之を見ず、恒ある者を見るを得ば斯れ可なりと古聖も曰へど恒あることすら極めて難し、我等は今誠なる鮮露貿易の魁として物產紹介、取引開始の重命を帶ぶ、生產者の爲めに謀りて忠ならざるか、顧客と交はりて信あらざるか、我を省み、人を省み、母國製品の信用地を拂ふに會する時、速かに歸りて我が朝鮮の生產者に告げ、卓勵砥礪相警めて道ある商に勤むを勸めんか、幸に相當の成績は得ぬ、いざ罷りなむ

○數旬間の實驗に由りて朝凝坊の露國旅館に晨食の用意は到底駄目と知りつれば、前晚中に諸勘定相濟し、明くれば十月三十一日午前八時、馬車を驅りて停車場に向ふ、膝掛は美事なる熊の皮なり、此邊熊多きにや少し氣のきゝたる馬車は皆之を用ゐ中央旅館の玄關番も長け一丈二三尺に餘る剝製の熊公なり、今日の列車はハバロフスク直行每奇數日發の黑龍江線準急行車にて、振出しイルクーツク驛なれば狼狽るせわもなく、今後一週間乘り詰めとありて二等車を奮發したれば最と氣樂なり、九時發車す、昇る旭日に寺の鐘、後朝告る朝雀、河風寒く麵麴堅し、さらばイ市よ、袖振り合ふも多少の緣、況して五日五夜の滯留に心盡しの鮮露貿易、幾世久しく契れかし。

○午前十時半貝加爾驛に戾りて名湖の風趣に再會す、碧潭靜寂一波起らず、凋落の冬は纎埃を絕し、唯白雲一片、對岸の雪峰を辿りて徐ろに北に流るを見る、この大景そも什麽、樹密猿聲響、波澄雁影深の境なるものそれこれにあらざるなきか、一たび激すれば怒濤岸を嚙むで大海に髣ならずと聞けど我は兩回共に靜かなる閑寂の湖心に接見す、想ふに洪波の喩きも人心には似かざらむ、偉人なる西伯利亞の背景よ、試みに西伯利亞の野より此の湖を撤去せば恰かも金で面張る富豪の財を失ひ、職に傲る權者の地位を奪はれ、乃至虛榮の婦女の美貌を傷け、翻嚙蕩る兒の俄かに親を喪ひるにも似たるべし、境遇や風致や多くは背景の返映にあらざる莫し、背景を無視して傲むべき自惚に驕傲るもの必ず、失神の蹉跌あり、絕望の悲みあり。

○西より東する列車は稅吏の湖畔の風神を騷がすことなくして、午後五時半森より、林より、山より、村より等しく立ちそむる暮色に包まれ了んぬ、湖を離れて東方少許里、ウエルフネ、ウーヂンスク驛あり、蒙古の首府大庫倫に通ずる要道にして自動車を通じ僅に一日程にて達す、中間ツロイキサースク迄は既に測量を完了して豫定鐵道線路なりと云ふ、露蒙の關係が膠膝の域に入れるは何人も知悉せるところ、千九百十二年十一月三日の露蒙條約、同四日の附帶議定書は今や遺憾なく活躍し、庫倫在住の露國人は一萬を超ゆと聞く後貝加爾線路に蒙古人の姿を目擊することも亦少し(三十一日)

●滿洲の工業界
其技倆に至りても內地人と大差なく


# 土地賣却入札公告

第一號 全羅南道務安郡一老面耕地雜地合計約六十三町步
第二號 同海南郡溪谷面耕地雜地合計約二百九十八町步
第三號 同海南郡黃山面耕地雜地合計約五十町步
第四號 同南郡南面耕地約八十町步
右入札ニ附シ賣却ス買受希望ノ向ハ左記要項承知ノ上入札セラルヘシ
大正五年五月廿九日
元慶善宮遺產淸算委員

一、入札場所 京城德壽宮事務所
二、入札日時 十二月十八日午前十一時締切後直ニ開札
三、入札心得 入札心得書ハ德壽宮事務所ニ備付アリ
四、實地檢分 實地檢分希望者ハ十二月八日マテニ木浦羅山町谷垣嘉市宛通知ノ上時日ヲ定メ案內ヲ受クヘシ
五、入札保證金 入札保證金ハ見積額ノ千分ノ五十
六、契約保證金 德壽宮事務長李王職事務官國分象太郎
七、雜件 入札ハ前記土地各號別トスルモ全部合併スルモ隨意トス又郵便ヲ以テ入札スルモ差支ナシ但シ此場合ハ入札定刻前豫メ保證金ノ納付ヲ要ス 以上

日韓書房
新版報告
米國通諸家 米國研究 定價一圓 送料十二錢
岡本米藏著 牛 五十一版 定價一圓 送料十二錢
山本實彥著 我觀南國 定價二圓五十錢 送料十八錢
瀨戶憲作著 活きた定石 卷一 定價六十五錢 送料十錢
松本識之助譯 最新實話 實戰應用 獨探 定價六十五錢 送料八錢
京城南米町二丁目 電話一五一四番 振替口座一一五番

# 婦人畫報

讀物
□心の籠つた交際……新渡戶博士
□男と女……大町桂月
□心のもち方……安井哲子
□鏡の光……巖谷小波
□本年婦人界回顧……下田教授
□滿洲を見て來て……倉橋惣三
□七日局逸博……赤堀又次郎
□上覽に供へし花細工……有川ひさ
紅茶(二頁大美人畫) 水野秀方女史筆

畫報
□皇后陛下 最近御眞影
□立太子式と滿都の祝賀
□皇后陛下行啓と御盛況
□美しき花の日の販賣
□大隈侯の家族と家庭
□德川伯邸の反古の會
□長井博士の一族
□三井夫人令孃の宴會
□名家の令孃と花嫁花婿

讀物
□文展の女流作家……藤懸文學士
□朝鮮の婚禮……坪內文學士
□美人傳 綱渡りの淸吉……長谷川時雨
□子を失つた親の悲み……野口教授
□男の友達……三宅花圃
□容貌を醜くする鼻病……千葉博士
□冬に多い乳兒の呼吸器病……瀨川博士
□長篇小說 む夏……菊池幽芳

十二月號 一冊三十錢 郵稅二錢 半年一圓八十錢 一年三圓四十錢
東京京橋銀治橋外 振替東京四九〇〇 東京社

資本金五拾七萬五千圓(全部拂込濟)
諸積立金二十四萬百圓
株式會社 朝鮮商業銀行
京城南大門通一丁目 電話五五八番、六八二番 振替京城一六三四番
一般銀行業
倉庫業
銀行長 趙鎭泰
支配人 豊田明敬
南大門支店 電話四四番 振替一七〇二番
本町支店 電話五八二番 振替一一九四番
仁川支店 電話八四九番 振替一〇六二番
平澤支店 振替一六〇六番
東大門出張所 電話一八六三

投中村庚之助氏の要[illegible]る處に見れば上海に於て三井物産の紡績工場を視察せしが支那人の勞働者は勞働賃金の低廉なるのみならず[illegible]

[illegible]モンド瓦斯に以て電氣を起すの動力となれるが電氣一キロワット時の値段は五厘乃至[illegible]

[illegible]試驗所を視察せしが大連地方は[illegible]質耐火粘土に富めるが故に將來耐火[illegible]

[illegible]東淸鐵道の長春哈爾賓間の輸送阻塞[illegible]規模の自動車運送案計畫せられ尙研究に於ても未だ具體的好案なきが如し[illegible]十錢より七十錢白川大豆八圓五十錢より九十五[illegible]爭線となり又露國の[illegible]東淸鐵道に對する[illegible]禁止品も或は輸[illegible]には種々の難點あれば其實行は更に研究を要する者なりと云ふ(大連)

●罰刑 平壤府橋口町李昌模(三十)同[illegible]第六十の忠刑を受けたり

## ●土屋騎兵聯隊長曰く、此冬は 國境第一線で耐寒行軍

羅南騎兵第廿七聯隊の營門は野砲兵第廿五聯隊の正門と並んでゐる、前に約廿萬坪の大練兵場を控へ

▽廣濶な營庭 を多くの建物が廻らしてゐる十日午後三時頃記者が此の聯隊本部の受附に立つたら其處に居た下士が『今聯隊長殿は調馬場で乘馬中です』と云つて、暫く本部の將校室で待たした、十五分も經つた頃土屋中佐は鞭を携へて僕の前に現はれた、中佐は語る『北鮮の騎兵隊――と云つても兵營に

▽ペーチカの 裝置を施してある位、內地の各隊と異なつた點は嚴寒中の乘馬練兵場があるだけ、然しコイツも餘り使用しません、兩三日前內地の諸方から集めた馬の整一調練の成績を見る爲め會寧へ聯隊の强行軍をやつたが其の成績は

▽思つたより 良かつた又來る十二月下旬か一月かの嚴寒時には聯隊の全部を擧げて會寧から豆滿江に沿ひ所謂國境第一線の寒中行軍を雄基まで試み直路羅南に引返す積りでゐます約二週間位は行程に要するでせう此の行軍は實戰時と同樣の覺悟で隨分

▽耐寒强行の 度合を試して見る積りだ唯朝鮮內の騎兵隊行軍は道路が惡いので困る殊に此の北鮮地方は到る所水害の跡あり砂礫露出し殆んど石河原を行くやうなものだから第一馬の疲れが內地に比し目立つて見ゆる、馬と云へば目下當隊の

▽馬匹は全部 內地より引いてゐますが此の嚴寒には仲々耐へましてね別に馬を容れる建物などには特殊の設備を加へぬでも其の健康狀態は慥なものです然し騎兵隊も常設となつたのであるから其の馬匹をいつまでも內地から取り寄するのは如何なものか內地種

▽馬匹の飼養 を朝鮮の人に望みたい、成程北鮮には支那馬が居る、戰時などにはコレモ止むを得ず使はうが平日では柔順なれど動作の敏捷を缺く非點あり、聯隊では一匹も飼つてゐません』と語りつゝ中佐は窓越しに練兵場の外を指しつゝ『あそこに

▽師團司令部 を建てるらしいが、始終司令部から此の聯隊本部を睨まれては耐らないと話してゐますよ』とて大笑す、師團司令部は騎兵聯隊の橫に其の敷地を求めてゐる(一記者)

## ●御饗宴第三日

皇太子殿下には廿九日午前十一時東宮御所御出門陸軍步兵大尉の御正裝にて入江侍從長以下を隨へさせられ霞ヶ關離宮に行啓各皇族方を始め奉り大勳位以下各親任待遇者三百餘名を御召の上御陪食仰付けられたる由(東京特電)

## ●戰死軍人 遺骸發見 哈爾賓にて追悼式

日露戰役の際戰死せる帝國軍人中哈爾賓露國陸軍墓地に埋葬せる將卒四十名の遺骸は昨年奉天に移葬せしが今回更に二十三名の遺骸殘存せる事判明せしを以て關東都督府にては藤主計正を哈爾賓に派し二十五日右遺骸を發掘し二十六日午前十一時より同地本願寺に於て崇嚴なる追悼式を擧行し二十七日同主計正は遺骸を携へて奉天に赴き同地の邦人納骨堂に納むる事とせり(長春特電)

## ●馬賊邦人二名を射擊す 一名は重傷=家財全部を掠奪す

二十二日午後十時東淸線商家溝東方三十支里なる楡原山に居住せる島根縣人隈江鐵一方へ馬賊八十九名闖入突然發砲し鐵一は左大腿部に貫通銃創を受け同居人熊本縣人廣田某も微傷を負ひ馬賊は家財全部を掠奪して立ち去りたり鐵一は重傷なるを以て直に哈爾賓共立病院に入院治療中なるが此の報に接したる哈爾賓領事館警察署にては協力して嚴重に犯人搜索中なり(長春特電)

## ●鴨綠江の結氷

鴨綠江は二十七日より結氷し初め船舶の航江不可能となりたるを以て同江開閉橋の運轉を中止せり

## ●不貞の妻を斬る

平南成川郡崇仁面蹄仁里鑿靴洞居住鍮夫朱翰林(三九)は妾金氏(三七)が徐てより自宅同居人なる鍮夫頭韓享洙(三六)と私通し居るを感付き居れる矢先き本月二十一日午前二時頃現場を認めたるより俄かに憤怒して有合せたる出刃庖丁を以て金氏の咽喉部胸部に突き刺して卽死せしめ返す手に翰林の右肩胸部背部に斬りつけて重傷を負はせ直ちに蹄仁憲兵派遣所に自首したり

## ●怎して賊を防ぐか 裏面に女=出獄人の自暴自棄

小泥棒にて風采の立派なものは尠いが、書生風、店員風のものが多いやうだ最近一人の書生體の竊盜犯人が檢擧せられた此の

◆賊の自白 に依ると或日京城府內の某郵便局員の宅に忍び入んだ家人は外出中のことて奧座敷の主人の居室に入ると机上に一通の手紙を發見した、女文字であるから件の賊は好奇心に唆られ其の手紙を披いて讀むで見ると此家の主人は妻女を持ちながら

◆某家の妻 と密通してゐるとが判明し而も其の手紙は情婦から寄來した艶書であつた、之れを讀み了つた賊は大に憤慨し妙な所に力瘤を出して妻がありながら他人の妻女と密通するとは不都合である

◆懲戒の爲 め此家の主を困らせてやらうと高價な女物が澤山あるにも拘らず其れには手を觸れず金目にもならぬ主人の持物は一品も殘す所なく竊取し役に立たぬ物は破棄して終つたといふことで同じ泥棒の中でも斯した

◆妙な賊 もある、更に泥棒を働いた動機を調べて見ると筋は異つてゐても大部分は其の裏面に女が潜んでゐる、女に溺れた結果遂に泥棒と迄成り下り竊むだ金で不義の快樂を貪るといふのが經路である

◆惡錢身に 附かずの譬へに洩れず盜んで得た金を使ふ、それが手掛りとなつて罪が暴露する而して、何回となく監獄の厄介になると出獄しても容易に人並みに就職し兼ねるから已むを得ず同類相集まり良からぬ事を働く、斯うして惡事を

◆幾度でも 繰り返すことになる京城では出獄人保護會に依つて是等の出獄人を保護看視してゐるのは喜ぶべき事である(をはり)

## ◎寒氣持續せん

二十六日朝鹿兒島附近に現はれたる低氣壓同日午後三時過日本海に入ると共に同ふして滿洲北部に高氣壓出現し其の影響を受けて朝鮮全土に渉り北西風を送りし爲め二十七日朝より急劇なる寒氣を催ふしたるが同高氣壓位置に異動無きを以て一兩日中に此の寒氣の去ることは望み難く且つ時期としても[illegible]或は寒氣が尙ほ幾分持續するならんと

## ◎庖丁で滅多斬

黃海道瓮津郡北部面新興里生れ李登來(三七)は十一月十日同面裴村里金權敬方にて縣內面梭山里の姜登鉉(三三)と共に會飲したる際登鉉が金員を携帶し居るを探知し立ち別れたる後自宅に歸りて庖丁を携へ登鉉が午後十一時頃同面梭山里の山路通行中を追つかけ携へたる棍棒にて同人を亂打して路傍の小溝中に押倒し庖丁を以て滅多斬りに斬りつけて全身に二十餘箇所の重輕傷を負はせて人事不省に陷らしめたるより絶切れたるものと思ひ二十八圓十錢在中の巾著を强奪して逃走したるが登鉉は其後に蘇生し登來は間もなく長連警察署の手に逮捕されたり

## ◎舞戾つて捕はる

開城郡興教面佛井里要士餘方同居金在淳(二〇)は同地雜貨商朴宣鎭(五二)より牛買入の爲め昨年十二月より本年九月末迄に資金として受取りたる金員の內前後十數回に百二十圓を橫領して行衞を晦ましゐたるも此程舞ひ戾りたる所を領井里憲兵派遣所に引致さる

## 次回講談豫告

宮本武藏も讀者多大の喝采裡に首尾能く近く大團圓を告ぐべければ次回講談には

### 明君道中記 田邊南弘

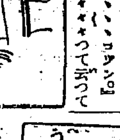
を特に我社の爲に演じたる斬新奇拔の得意の讀物を掲載すべし內容の珍らしきと面白きは今更ら贅言を要せず本講談は演劇で云へば彼の故人助高屋高助又は中村宗十郞の得意もの大和橋馬切の名題ものにて駿河大納言忠長の嫡子長七郞が諸侯を鮮して心の儘に諸國を往來した奇聞逸事は讀者諸君の目前に躍如たるものあり而して一讀必ず次回の待ち遠きを思はるゝは決して手前味噌に非ず愛讀者諸君乞ふ掲載の日を待たれよ挿畫亦頗る鮮明美事なり

## ■郷都景物誌 千帆

(7)箕子陵 松林かついて、箕子陵とかいた立札を目標に松の落葉を踏んで山をだん／＼下つてゆく。何處までも翠色滴る許りの松林の中を、白い砂道は右に左に曲り近つて行く。それの盡きた所に寄の處が見ゐる。それが箕子の陵であつた。內部を覗き込むと一段高い所に石碑があつて實にとたゞ讀める。それから「ド」の字形に別れて見ゐない。唯それ丈けである。蹤を廻らして行くと楡と櫟との疎林に入つてゆく。風の聲は落葉の音と交つて水の樣に冷い初冬の幽邃が迫つて來る。何處からか來る強烈の聲を追ふてゆくと、楡の古木に啄木鳥を發見す。ポツポツと重い音は櫟の木に繋れた仔馬の脚下から來る。林の外の黑い畑には肥つた雞が遊つて居る。新た背負ふてゆく子供の掌の裡には澁柿が澁んで居た。街道に出ると市場から戾る馱馬の鈴の音も、飴を賣る爺さんの顔にも、七星門の害く苔むした瓦にも小春の日が一杯に滿て居た。

(8)平壤栗 庖丁を片手に細板の前に坐つたM君は器用な手つきでコン／＼と栗に双を入れながら曰ふ『平壤では栗が大流行ですよコツン、(この音は栗に双を入れた音)何處の家へ行つてもコツン、栗を喰べて居ますよコツン、每晩私の家でコツン、美しい事にはれコツン、コツンでコツン／＼とコツン、栗を割りますけれどコツン、普通に美味いのはコツン三登と云ふ所の栗ですコツン、その次には成從の栗ですコツン。熱い間にお召りなさい』ガチナンすよコツン、この栗は少し水氣がありまたちですこれは三登か成從か知らんが馬鹿に美味い栗だと思つた(これは庖丁をおいた音)とれコツン、暫くすると隣家でもコツン、コツンやり出すんですよハヽヽ、コツン。』『京城の方はコツン、平壤栗々々つて云つて』

## うわさのうわさ




先達て兒玉伯が內地へ歸る時のはなしである△伯が夫人と共に赤坂の大橋主幹の許に行くと恰も送別會から歸つた大橋氏はフロック姿のまゝで頻りに嬰息を可愛がつて居る△次に其の足で倭城臺の藤田參事官の宅に行くと此處でも主人が坊ちやんをあやかして居る△終に郡山氏の宅を訪ふと此處でも主人がお守役であつた△そこでいよ／＼汽車で出發しやうとすると這回はまた時永總務課長の令息が「小父さんさよなら!!」と挨拶に出る始末△これでは全く子供に挨拶に廻つたやうなものだ△伯は頭をなでながら笑つた相な△二十七日の夜朝鮮ホテルに開催された立太子式饗宴の祝賀會には來會者一同なか／＼の元氣で恁麼芽出度いことはないとばかり餘興には各人各樣の隱し藝が出た相な△就中最も大喝采を博したのは白水參謀長の軍隊式ラッパ節で滿座抱腹絶倒したさうな

▲妙心寺臘八大接心 來る十二月八日は佛祖釋迦牟尼佛が雪山に於て六年苦行を爲し曉の明星を見て大悟徹底せる記念日に相當するを以て妙心寺別院にては來十二月一日より八日曉まで每夜大接心會を修行する由

▲曾我兄弟 大正館にては前週來の新派劇及び岩淸水を出して好評を博したるが來る廿九日より本年掉尾の特別興行として日活最近の大努力なる曾我兄弟全八卷二萬呎を上場する事となれるが同寫眞は日活が三年の日子を費し尾上松之助實川延一郎以下百五十名の俳優が登場して本月新に撮影せるものにて大正館にて封切を爲せるものゝ由にて一萬箱王時代の生立より富士の裾野本陣まで百二十場あり映畫中五郞は尾上松之助・十郞は吉村夢郞相勤むる筈なりとその他配役の主なるもの左の如し

▲滑稽まぐれ當り▲貨物夏のモスゴー▲喜劇藥のきゝめ▲活劇恐怖全三卷

▲龍糸會義太夫納會 龍糸會にては廿九三十の兩日明治町浪花館に於て同會淨瑠璃納會を開催すべく初日の語り物左の如し

▲御祝儀(ばい若)▲本朝二十四孝四段目(八重子)▲梅の由兵衞(柳枝)▲太功記妙心寺(眞月)▲天網島紙屋內(相朝)▲赤垣源藏(幸)▲先代萩御殿(眞駒軒)▲お半長右衞門帶屋の段(かけ合)▲由良港千軒長者山(段▲封王丸(初子)▲安達娘(八重子)▲三味線(いせや三福)

▲黃金館 二十八日より差替へたる舊劇佐用姫三郞三卷新派連鎖劇金剛石活劇紘筒黑い袖にて開演せるが黑い袖は相變らず好評にて客足を惹き居れり

▲有樂館 二十七日より差替の活劇大臣の奇禍舊劇白浪五人男新派悲劇いさみ肌にて好評を博し居れり

## 京日案內

普通 一回前金一行十錢 番外 一回前金一行六十錢

番外

御下宿開業仕候静にて極大勉强御丁寧に御取扱致候何卒御光來の程希願上候 吉野町一 吉野館廣瀬淸一郎 810

●子供差上げたし 本月出生男子血統正しく身體强壯愛兒の方に差上げたし 若草町一〇七 西岡 809

●簿記係採用 二十歲前後商業學校出身者該經驗ある者二名履歷書送付保證人二名要 仁川島居商行 808

●家傳妙藥 梅毒肺病霜燒婦瘡疽等の療法を傳授す郵券十錢添申込まれ 大阪府下中津町下三番三〇七 西村幸吉 811

●店員入用 身體壯健にして商業に經驗ある者入用 京城靑葉町七〇 大橋屋商店 812

●見習看護婦入用 但十七八歲の者 姓名在社 807

▼當用日記懷中日記は非常の大勉强 京城本町振二二三ウツボヤ書店 591

◎古本熱心高價買入 是非御試貿を乞ふ 電話二七八一番 ▲御報參上 ▲本町四 ▲書肆 群書堂 779

園 恭 午後六時より 五人拔呈賞品 旭町一丁目 旭倶樂部

古本なら野村 明治町筋電二六三六 買入誠實御報參上 野村書店 636

番外

盆石教授 京城旭町三丁目十番地護國寺畔 川流石家元京城支部 805

勸業債券高價買入 並に月賦販賣 京城大平通二ノ三二六 (電話二八三一番) 商業銀行債券部 814

外交員募集 履歷書携帶午前中來談 旭町一丁目白水下 朝鮮割烹講習會 806

店員入用 年齡十四五歲より二十歲迄の者至急入用希望者は來店あれ 京城本町一丁目 ますや吳服店 813

讓店 賣藥、化粧品、小間物其他 日用雜貨業 最有利多望の老舖也(姓名在社) 492

英語 普通會話作文に通じ事務に經驗ある者一名雇入る希望者は自筆和英兩文の履歷書携帶午前中に來談せらるべし 仁川 廣昌洋行 799

質 業開 黃金町三丁目十五番地 永樂町停留場 北入萬成舍隣 濱田 750

京城春川間行自動車賃金片道四圓 每日午前八時出發 京城南大門通一丁目 廣橋自働車 電話二一九番 主務 金正淵 630

恩給 年金 短期無保險月利一步二厘五毛 京城南大門外(舊御成町) 即時現金 替立 山口屋 699

社員採用 外交に經驗ある紳士府內に保證人を要す希望者は履歷書携帶來談ありたし 京城府南大門通二丁目 大同生命保險會社出張所 737

毛皮なめし專門 京城黃金町三丁目電話二三八九番 並に染仕立 和泉商行 745

●銃砲火藥 獵具 京城本町三丁目電話二〇九二番 增戶銃砲店 755

大和町一丁目(日の出橋下る) 小兒科 內科 爲春堂醫院 (電話九二八番) 院主 古城倜吉 656


本派本願寺前法主 大谷光瑞師著

# 放浪漫記

▲大谷光瑞師肖像と署名筆蹟、聽松草堂漫興、▲三十首眞蹟、旅行地圖、各地寫眞數十種挿入

菊版上製紙四百五十頁 大和綴絹表裝上製函入 定價參圓 郵税二十錢

大谷光瑞師は、貴族中の貴族也。矜嚴自ら持し、素行修潔の士也。志趣高邁、眼一世を空うする人也。其の意見と文章と、豈に容易に預り聞くを得んや。然も特り本書に於て、且つ師親ら手記する所のものを、縱まに看るを得んとす。亦た驚喜ならずや。

『放浪漫記』及之に附屬せる『避暑漫筆』『閑餘隨錄』は、實に師が心血の凝聚したる一片と謂ふも可也。師故あつて敎界を退き、大正三年末以來去つて漫遊の途に就てより、東南亞細亞の各地を遍歷し、時に一處に停頓するとあるも、今猶ほ炎熱風霜を冒すを止めず。嘗に本派有志の徒、特使を派して日本歸還を懇請したるも、師遂に肯せず、自ら甘んじて長く、客土に老んとするの槪あり。其志豈に深く諒す可からずや。而して此際師が目擊する所、感觸する所の事々物々、及平生蘊蓄する所の抑塞す可からざる一腔の想念は、其の靈腕に上つて淸新俊逸の文字となり、世の操觚者流をして後に瞠若たらしめんとす。師の自重せる決して世間に售らず、獨り我が蘇峰學人を透して、國民新聞に登載するを諾せり。去々年來讀者諸君の時々喜讀せらるゝ者、卽ち是也。今之を集めて以て一卷と成す、本書の價値、蓋し嘵々を須ゐんや。

本書『放浪漫記』は大正三年十一月發程より、大正四年六月普陀の避暑に至る迄を收む。其間朝鮮、滿洲、西伯利、關東州、中淸、海峽植民地、印度等の人事、風土、生產、商工業、動植物、氣象、風景に至るまで遺す所なく、且叙し、且論じ、其の經綸抱負の一端を窺はしむると同時に、『避暑漫筆』と『閑餘隨錄』とには、觀察の精到と趣味の深湛とに敬服せしむ。若し夫れ『閑餘隨錄』に至ては、人をして更に師の學殖と見識と文藻とに嘆服せしむ。一世の識者、或は師を以て一本立の出來る學者、總理大臣級の政治家と見做せり。果して然るや否や、本書を繙く者は必ず其の消息を得ん。

發行所 東京市京橋區日吉町 振替口座一三一〇〇番 民友社

大賣捌所 京城太平通一丁目 振替京城三〇〇番 京城日報社代理部



三年計畫の大雄作(本月新撮影)

一に富士(曾我) 二に鷹の羽(義士) 三に上野に散る櫻(伊賀) 之を日本の三大仇討といふ其第一の快擧たる

天下一品 武士道鑑 曾我兄弟 全長八卷 二萬呎

は日本キネマ界に於ける空前の一大傑作にして忠臣藏以上たる事を斷言す

臨時大合同劇 尾上松之助 實川延一郎 兩座總員百五十名登場

二十九日より開演 特別大興行 當館封切 大正館



●質屋開店御披露

謹啓各位益々御淸榮の段奉賀候扨て弊店儀今て京城明治町二丁目(舊曙町)へ新築中の營業場所今般全部落成仕本月二日より開店致候に付ては尙今後共一層御客樣本意にて親切確實に營業可仕此段御披露申上候 敬白

尙完全なる倉庫の設備致候に就ては諸物品の保存は勿論火防盜難豫防ー至極御安全に候

京城明治町二丁目廿二番(舊曙町) 大塚質店 電話一八四九番

舊龍山元町二丁目(舊老松町) 大塚質店 電話五六五番



貯蓄預金 元金百圓ニ付日步壹錢三厘 金壹錢以上何程ニテモ御預申候

株式會社長崎貯蓄銀行代理店

株式會社十八銀行京城支店 振替貯金口座京城八二四番 京城黃金町電話四三〇番五八〇番

同 龍山出張所 龍山元町二丁目 電話一八番

諸預金貸付爲替銀行一般ノ業務ハ精々御便利ニ取扱可申候

# 怒濤の月

（六）落選（三の一）

小林蹴月作　武内桂舟畫

「阿母さん、殘念ながら、僕の力が足らないんです。勉強が不充分なのです。ゆ、赦して下さい。」

今朝の新聞を右手に握り詰めた儘、眼を釣いで、口惜さうに胡座の膝頭を顫はせて居る幸三郎の顏には、何とも名狀の爲がたい苦痛と憤慨の影が宿つて居るのであつた。

「什うしたんです、幸三郎、お前何も妾に詫入るやうな事は爲ないぢやありませんか。」

倅の聲に驚かされて、勝手元の方から濡れた手先を拭ひながら出て來た老母は、何が何やら合點のゆきかねたやうな容子で、斯う訊ねた。

「落……落選したんです。文展の方は。」

幸三郎は、面目なげに頭を垂げて了つた。

「まあ、落選と極つたんですかね。」

老母も流石に失望の溜息を包む譯にはゆかぬのであつた。

「自分丈では、可なり努力を盡した了簡なんですが、識者の眼から見ると、まだ／＼物になつて居ないんでせう。僕は阿母さん、畫工なんか厭になつちまいましたよ。」

「落選と事が極れば、然う云ふ考の起つて來るのも無理はありませんけれどもね、幸三郎、昔から立派な人に成られた先生達の來歷を聞いて見ても、三年や五年で名を成し遂げた人は、滅多にあるものぢやありません。折角是まで修業しかけた畫の事ですから、一遍二遍の落選位で、氣を落すやうな事では、到底駄目ですよ。人間と云ふ者は、失敗する度に益々堅固な決心を爲るやうでなければならぬものですよ。」

見かけは弱々しい白髮の老婆であるが、思想は反つて、幸三郎以上に鞏固なのである。

「そりや大きに然うですけれどもね阿母さん、阿父さんの生きて居られた時代と違つて、目前の生活と云ふ大問題を控へて居るんですから、僕ばかし勝手な修業を爲て居つても阿母さんに日々の苦勞をお掛けするのが…………。」

幸三郎は、實際畫の修業を中絶したいのではないが、全く目前の生活問題に當惑して居るばかりでなく、既に今年の文展へ作品を出すに就いても、繪具やら額代から枠張の表裝やらで、眼に見えぬ大金を費して居る上に春の二三月頃から以來、それ一ツのみに精力と時間を沒頭して了つたので、もう二進も三進もゆかぬ所まで、煎じ詰めて居るのである。だから、義理としても、一人の老母に對して、畫工の修業などは、止めて了ふと言はねばならぬ破目になつて居るのであつた。

「ほ、ほ、ほ、お前は又してもそんな事をお言だけれども、妾の苦勞なんかは、決して氣に止める事はありません。それよりは、今度の落選こそ好い機會です。かね／＼お前が口癖のやうに言つてお在た朝鮮から支那の漫遊を思ひ立つた方が、餘程優しと云ふもんです。」

「阿母さん、嬉しう御座います。阿母さんの然う言つて下さる一語は、文展で千餘人の落選仲間と運命を同うした僕に取つて、二等賞以上の難有さですが……………然しながら阿母さん、漫遊の目的を遂げるに爲ても、先立つものが矢張缺乏では…………。」

「いや／＼、その事なら心配するには及びません。今までこそは、お前にも誰にも明さずに置きましたが…………。」と、老母は、徐かに座を起つて、些やかな佛壇の中から、煤と埃と香の煙とに燻りきつて、眞黒に變色して居る長五寸ばかりの厨子を取出して來たのである。

幸三郎は、ほと／＼腑に落ちかねた氣色で「阿母さん、お厨子なんか持ち出て來て、什うなさるんです。」

「此のお厨子はね、妾が此の倉橋家へ嫁入りする時、妾の阿父さん――お前には母方のお祖父さんだが――と云ふ人が、一代の守本尊として信仰するやうに被仰つて、下されたのですが、中に御座る觀音さまのお像は、小さくとも純金で鑄たものです。此の守本尊をば、お前が今度の落選のお餞ひとして、母から進上するゆゑ、お前の好きなやうにして、かねての目的を達して下さい。そして、來年の文展には、是非共入選するやうな畫を描き上げて下さい。どうせ行先の短い妾は、お前が一角の名を成すまでに、死んで了つたらそれまで、命さへあつたら、貧苦や不自由に恐れず、母一人で乾度留守を勤めて居りますから…………。」と、言ひつゝ、厨子の中から、一寸餘り八分ばかりの觀音像を取出す。

京城南大門驛前二見館内（電話六〇七）
肛門病痔疾注射專門醫院
出張患者の都合に依り來る十二月十五日迄延期す
患者參考　最新式痔疾根治注射療法書申込次第進呈

●久枝式痔疾注射療法　京城南大門驛前二見館内に於ける久枝肛門病注射專門醫院長は滿鮮各地巡回治療の途次幾多患者に對し氏獨特の注射療法を施したるに顯著なる效績を示し來診者非常に多しと

南米倉町朝市場通仁濟病院跡
内科小兒科　花柳病外科　入院隨意
上野醫院　電話二九三四番

□俳諧嶄心（第十九回）

ひし／＼と榾積む土間や冬構　田打夫
居土間に轉げし錢や霜の朝　同
土掩へば女又泣く墓地時雨　同
枯藻引けば冬の日に水泡浮いて消ゆ　同
呪禁の飯捨てゝあり多田道　耕伯
木枯や馬に鍼する驛の夕　同
鷄探がす母顔險し夕時雨　同
時雨や砂にまみれし犬の皿　同

下關期米特電

大阪期米（廿八日）

| | | |
|---|---|---|
| 安値 | 一六、二四 | 一六、七一 |
| 止め | 一六、三四 | 一六、七八 |

たるが押目は又買物多く八十二錢と返したる折柄兵庫縣寄十六圓九十四錢東京十七圓九十九錢大阪十七圓四十八錢と入電に接したるが大阪四節四十九錢五節四十二錢と安移りに八十錢と押したるも依然買物薄にて二錢と返し大阪四十[illegible]

▲後場の手[illegible]　[illegible]踊せざりし反動なるか後場大阪の低落を受けて[illegible]下げ[illegible]の場面であつた[illegible]要するに高低何れにも附隨せざる者の如し[illegible]

▲月末戰如何　[illegible]

出來高　一萬二千石

## 讀者の鏡

郵便局の郵便物運搬馬車と消防隊の喞筒馬車と鍋燒饂飩の車とは京城に於ける鈴振車の三幅對だと云ふがまた面白いのがありそうな（チリンチリン生）▲觀水洞の某家のお内儀さんは之迄水道規則違反者として度々其筋から叱責されたのに性も懲りもなく又ぞろ水道側で米を洗つたり漬物の野菜や著物の洗濯までしてるが一般汲水者の迷惑は何とも思つては居ない第八十番の[illegible]願ひます（朝鮮[illegible]見生）▲活動寫眞の說明で英語の讀方の間違ひをよく聞くが某館でトートイスを[illegible]發音して居たのも其一例だ今少し御勉強が肝要ですよ（フィルム）▲端書に書く所を古新聞の白い所に用件を認めて五厘で濟せる不屆漢あり（ポスト）▲或所の藥種屋の賣藥の廣告に（僞せ物あり）と麗々しく書いてあつたがまさか其店で僞せ物を賣つて居ると云ふ譯でもあるまいに（理屈屋）▲往來で下駄の緒が切れて困つて居たら向ふの雜貨屋のお内儀さんが小僧さんに吩付て布片れを持つて來て下さいましたがほんとに床しい其お心根に感服させられました旭町全體の誇りです（行路人）▲御社の小說怒濤の月其名からして可憐な絹代が如何なる運命の掌上に飜弄されるでせうか非常に緊張した氣分で拜見して居ます

## 新刊紹介

▲忠州發展誌　忠州の地誌、行政、教育、警察、裁判等を初め守備隊、農工商金融交通宗教教育より著名人物、名所舊蹟、民情等に至る迄凡て忠州の發展並に情勢に關する考察資料は全部之を網羅したり尚ほ忠州著名人物名鑑を附錄す（六十錢忠清北道忠州郡邑内面金谷商會）

▲生活の力（五七）一錢東京市京橋區木挽町六の一〇生社

▲習字と作文（一の四）五錢東京府巣鴨町一八六二大日本習字獎勵會

▲工業生活（二の一）本號は手島先生退任記念號と題し阪田貞一、岡田良平、高田早苗、大隈重信其他十數名士の工業界に於ける手島氏の功績及び人格等を頌せる記事を以て滿せり（三十錢東京市小石川區表町大日本工業學界）

◉即吟會　十八日午後七時より若草町小川懿孫氏宅に於て二葉會の即吟會を催せり會する者三十有餘名席上無二庵帝史宗匠より「冬の川」の題が出て互撰の結果は左の如し

薄氷の底に魚見ゆ冬の川　庭月
冬川や筏動かす日のくるゝ　京圃屋
日頃見ぬ石見ゆにけり冬の川　同
橋杭に藻寒け也冬の川　同
樟かろくなりし渡舟や冬の川　玄對
冬川や何鳥か綱代木に一羽　鶴蕉
解いて流す大木筏や冬の川　庭月
銀線のうねり／＼や氷る川　玄對
川狩に網も用なし冬の川　庭月
長堤を修理す村や冬の川　鶴蕉
氷張て銀河の如し冬の川　玄對

石を曳く坂や霰の陽に轉ぶ　青丘
時雨笠傾け歸る飾屋かな　同
枯野路や賦役で架けし土の橋　同
霜除に蘇鐵堂々の姿かな　樵亭
時雨るゝや浦塲明太鱈干に　同
巫女連の荷馬横切る枯野哉　同
峰寺に飼はるゝ犬や落葉風　容堂
昨夜生れし子が欠伸せし炬燵哉　同

景福宮所見

大鼎に水少しためて時雨けり　浩一郎
苦力の枯野押し行く單輪車　同
樓門に來て肩かへる荷や村時雨　雨芒
呪咀の文狐格子に時雨れけり　十時

—大正五、一一、二三—

壹千反限り
# 高貴織
帶地無代進呈

高貴織が二圓五十錢で買へるとは原糸暴騰の今日噓のやうだが現に過去五年間吳服の格安亂賣で評判を取つた東京市日本橋區本石町一丁目吳服問屋關谷商店が最新流行新機高貴織を前記の馬鹿値で投賣りしつゝあるが日な羽根が生へて飛ぶ大賣行柄合も地質も一見高價の本場物に負けぬ上等品でタッタ二圓五十錢特別上製二圓八十錢と云ふ一風變つた大安賣買ぬ物は損なりけり且大賣出しの記念として美術を込めし西京西陣製の新博多女帶地を一反の注文毎に一筋宛の無代進呈をなす由因に地方の希望者は同店宛ハガキにて男女別年齡を記し申込ば柄合親切に選び代金引替送料も實費で送るとの事

新刊圖書御案内

| 書名 | 著者 | 定價 |
|---|---|---|
| 朝鮮現行官制官規 | 萬松堂 | 七〇 |
| 同　民刑法典 | 同 | 一、五〇 |
| 同　警察衛生法規 | 同 | 五〇 |
| 朝鮮地方行政法規 | 同 | 四〇 |
| 同　租税及會計法規 | 同 | 二、〇〇 |
| 同　土地林野法規 | 同 | 五〇 |
| 同　水産法規 | 同 | 一、〇〇 |
| 同　交通運輸法規 | 同 | 一、〇〇 |
| 同　現行諸法典 | 同 | 八〇 |
| 債權總論講義案 | 尾山秀夫 | 七五 |
| 物權法提要（自一卷至三卷） | 渡信三 | 七五 |
| 經濟原論　上卷 | 山崎覺次郎 | 一、〇〇 |
| 大正の青年と帝國の前途 | 德富猪一郎 | 八〇 |
| 弱者の爲に | 杉村楚人冠 | 一、三〇 |

▲大正六年度日誌いろ／＼澤山著荷仕候

萬松堂書店　京城店　仁川店　京城本町二丁目　電話一一六六番　振替京城三四五四番

新刊書御案内

| 書名 | 著者 | 定價 |
|---|---|---|
| 悟道の妙味 | 釋宗活 | 九〇 |
| ペン手紙と葉書の書方 | 黒柳勳 | 八五 |
| 化學工業全書十七　石炭・瓦斯 | 高松、丹波、田原共著 | 二、五〇 |
| 實用家庭釀造物製法及鑑定 | 柴山廣太郎 | 一、〇〇 |
| 歐米對照小學校教育の實際 | 小川正行 | 二、八〇 |
| 萬病根治自然療法 | 西川光次郎 | 一、〇〇 |
| 祝賀弔辭演說と文章 | 大日本雄辯學會編 | 一、三〇 |
| 宇宙人生論 | 新雲梅悟 | 七〇 |
| 英和根抵一萬語全 | 勝俣銓吉郎 | 六五 |
| 能率本位時間の活用 | 芦川忠雄 | 六五 |
| 實戰應用圍碁定石之部 | 瀬越憲作 | 六五 |
| 春夏秋冬俳句手ほどき | 水翔庵 | 三五 |
| 結婚要訣 | 下田歌子 | 一、三〇 |
| 枕草紙評釋 | 窪田空穗 | 二、五〇 |
| 畫集初夏の夢 | 名越國三郎 | 一、〇〇 |
| 小說龍巻 | 田口櫻村 | 五〇 |
| 小說姉と妹 | 井田絃聲 | 一、二〇 |
| 善心惡心 | 里見弴 | 九〇 |
| うきよ第三 | 柳川春葉 | 一、三〇 |
| 全譯罪と罰 | 生田長江、生田春月共譯 | 一、四〇 |
| 朝鮮諸官廳受驗必携作文軌範第三版 | 安達大壽計 | 四〇 |

大阪屋號書店　京城本町二丁目　電話二〇八六番　振替京城[illegible]

愛用者の聲

# 美顏白粉をお使いになつて【其十】

美顏白粉は、品質が飛拔けて良いので大變な人氣を引き起しましたにつけ、各地の愛用者から贈られた感想を謹んで茲に御紹介いたします

**六九、感じたこと**　福島縣若松市七日町　芳賀六つの花殿

私は是迄に色々の白粉を使つてみましたが、美顏白粉をつけた時程愉快に感じた事はありません。第一今までの白粉と違つて生れつき色白の如く、又光澤ののびに到つては言分が無いと思へます、此間も暫く逢はなかつた叔母が「お前去年よりずつと色が白くなつたね」と言ひました。私は今は生地まで白くなつた事を感じてゐます。

**七〇、叔母樣の抽斗**　東京市小石川區柳町　石川白つゆ殿

去年の事です。私の若い美しい叔母樣の家に參つて髮を結つて頂いた時です、一寸鏡臺の抽斗を見ますと、床しい香の白粉が入つてゐました。それが美顏白粉で、此叔母樣の美しさを養つてゐるものと分つてから、私も其れを使始めたのですが「私はたしかに從來こんな良い白粉を使つた事が無い」と感じました。今でも矢張然う思つてゐます。幾ら使つても此白粉なら飽きません。

**七一、銀杏の庭**　新潟縣西蒲原郡[illegible]　坂東文子殿

つい去年の春までは、白粉の撰擇に隨分と苦心もし經驗もして見たのでございます。それが一度美顏白粉を使ひましてからは、それ迄のあれこれと惑うた事がつく／＼馬鹿らしい事だと思ひました。それ以來他の姉さん達が『文子さんの綺麗になつたこと』などとほめて下さる樣になり、今では毎朝お化粧がすむと、黄色な銀杏の葉が一面に敷かれてある庭の面を眺めては心の底からこみ上る嬉さに獨ほゝ笑むのであります。

**七二、鏡の前にて**　大阪市心齋橋三丁目　嵐紫羽子殿

湯氣の立籠つた湯を出ると、思はず上氣した頰に手をあてました。白絹の樣に美顏白粉のよく延びてゐるのに先づ驚かされて、嬉しい微笑の中に鏡の前に立ちました。常々の鼠色は被はれて美しい光澤が自然美を現してゐます。品高い香のいざなひに樂しき一生を此白粉を愛用して行く自分のほこりをひそかに感じました

**七三、兎ても**　和歌山縣西牟婁郡[illegible]　高垣みち子殿

私は美顏白粉發賣匆々よりの使用者です。それ迄は色々な白粉を使用して見ましたが、のびや色艷が思ふ樣で無かつたり、斑になつたり態とらしくいやみでしたが、美顏白粉には其樣な事は少しも無く、生れつき色が白いやうに附き、此頃では生地迄白く、光澤が出て皆にもほめられる樣になりました。私は兎ても他の白粉を使ふ氣にはなれません。

**七四、嵐強き地にて**　樺太大泊本町　山口いし子殿

私は寒い／＼北國の新領土の樺太に居る者で、日々美顏白粉を使用致して居ります、美顏白粉はノリやノビがよく、まして樺太の如く嵐の強き土地にて、冬の夕べ湯上りなどに使へば實に／＼心地よく。私の樣に荒れ性の者でも日に增しきめがよくなりますので一日たりとも使用せずには居られぬ程でございます。

**七五、冬のお化粧**　佐賀縣西松浦郡大川原　前田壽世子殿

今日此の頃となりましてお寒く、人の膚も白から荒む[illegible]私は朝[illegible]美顏水で[illegible]美顏白粉を[illegible]化粧を致します。さすれば如何に北風が吹いても顏の荒れる心配もなく膚はさながら羽二重の樣、眞の美しさを現はして而も手輕なお化粧が出來、芳香此上なく心地よく、春の花園に遊ぶ樣です。私は何人にも此白粉をお勸めします。

**七六、お手匣から**　神戸市中山手通七丁目　山口いし子殿

私は當家の小間使としてお優しい方々に仕へてゐます。皆樣お美しい方々ばかりで、殊に孃樣は色白の活々と、御生れつきからとは申せど私は羨み申してゐました。或時一寸伺つてみますと、それおちやお前もこれで美しくおなりよ、と仰在つてお手匣から出して下さつたのが美顏白粉でした。醉ふ樣な芳香眞白な品の高い艷、お蔭樣で私も今では美しいと言はれて居ります

新荷著廣告
米國製最新式スケート

定價表無代進呈
特約店希望は至急申込あれ
京城本町二丁目　篠崎運動具店　電話一三〇三番　振替四六八番

今般亡父李人稙葬儀不拘遠路枉駕哀感無已茲敢敬謝
男　李莞珪

外科皮膚科　瀬戸醫院
旭町二丁目（舊三丁目）
醫學士　瀬戸潔
（電話二四九八番）
診察夜九時まで

金泉醴泉間自動車時間
上り　金泉發　前八、三〇（一番）　後[illegible]（二番）
下り　醴泉發　前八、〇〇（一番）　後[illegible]（二番）
金泉織居自動車支部　金泉電話四八番

[illegible]汽船仁川出帆
群山、木浦、釜山、下關、神阪行
○大石丸　十一月廿九日後四時出帆
○秀吉丸　十一月廿七日後五時出帆
○君が代丸　十一月三十日後五時出帆
○神代丸　十二月三日後四時出帆
仁川海岸通　電話五十九番　高杉回漕部

日本郵船仁川出帆
○大連、太沽行　三河丸　十二月四日正午出帆
○大連、秦皇島行　相模丸　十二月十二日正午出帆
高砂丸　十二月廿一日正午出帆
仁川海岸町一丁目　電話十一番　堀回漕部

汽船釜山出帆廣告
○門司、神戸、大阪行　立神丸　十一月　日後五時出帆
○小倉丸　十二月　日後五時出帆
○元山、清津、浦鹽行　立神丸　十一月　日後十時出帆
○小倉丸　十二月　日後四時出帆
○元山、西湖、新浦、城津、清津行　第三翠平丸　十一月　日後六時出帆
○門司、宇品、神戸、大阪行　第三翠平丸　十一月廿八日後六時出帆
佐須奈、嚴原、壹岐、博多行　○天眞丸　毎月二日九日十四日廿一日廿六日（午後十時出帆）
釜山港埋立新町　本船取扱店　大池回漕部

大阪商船仁川出帆
○外航路所屬航路遠洋航路を除く間連絡航路乘船の時は五分引を以て連絡切符を發賣仕候
○群山、木浦、釜山、關門、神阪行　安東丸　十二月四日　濟州丸　十二月六日後五時出　天智丸　十一月三十日
×木浦、釜山、嚴原、鄕の浦、長崎行　信濃川丸　十二月十三日後二時出　信濃川丸　十二月卅一日
×群山、釜山、横濱行　福州丸　十一月三十日　潮州丸　十二月十七日後二時出
○鎮南浦、門司、神戸、大阪行　大智丸　十一月　日正午出帆
○鎮南浦、門司、神戸、大阪行　須磨丸　十一月三十日正午出帆
○鎮南浦、大連行　信濃川丸　十二月八日　信濃川丸　十二月廿六日後二時出
×大連直行　潮州丸　十二月十一日　福州丸　十二月十八日正午出帆
○鎮南浦、大連行　福州丸　十一月　日正午出帆
清津、浦潮行（元山出帆）印、城津西湖津ニ寄港浦潮不寄港　安平丸　十二月五日　宮島丸　十二月十一日後二時出
○上海、基隆、打狗行（大連出帆）　基隆丸　十二月四日午後四時出　湖北丸　十二月十二日午前六時出
御注意　●朝鮮總督府鐵道及び南滿洲鐵道連絡切符發賣仕候●[illegible]
切符發賣所　大阪商船會社仁川支店　電話二〇〇番　五五番
京城切符發賣所　内國通運會社支店　電話七〇八番
●中國四國沿岸各港經由[illegible]

朝鮮郵船出帆
○全羅丸　十二月五日　○京畿丸　十二月十六日　○黄海丸　○咸鏡丸　十二月十二日　釜山發
○穩城丸　十二月四日　○昌平丸　十二月二日　○鏡城丸　十一月廿九日　元山發
○第二錦旗丸　十二月一日　○忠清丸　十二月七日　○平壤丸　十二月十一日　元山發　城津清津雄基浦潮行復航釜山より門司又は長崎行
○盈德丸　十二月二日　釜山發
○江陵丸　○襄陽丸　毎日　浦項　釜山發　長生浦方魚津寄港
○三浦丸　十一月廿九日　釜山發
○海州丸　○巨濟丸　○慶寶丸　毎日　釜山發
○順天丸　三日目毎ニ　木浦發
○慶興丸　十二月四日　木浦發
○慶興丸　十二月二日　木浦發
○公州丸　十一月廿九日　木浦發
○宗信丸　十二月一日　仁川發
○江原丸　十一月廿八日　仁川發　西島、大連、芝罘行
○晋州丸　○麗水丸　十二月一日　十二月八日　仁川發　各港經由木浦行
○全州丸　○南陽丸　毎日午前　仁川發　江華島、桐橋島、海州行
京城南大門驛前　松原運送店

阿波共同汽船仁川出帆
○芝罘、大連行　第三共同丸　十一月廿六日入港　十一月廿八日正午出帆
朝鮮鐵道主要驛にて荷客連帶輸送取扱仕候　大連にては青島行定期船接續荷客共直航船と同額運賃にて通し輸送御取扱可仕候
阿波共同汽船株式會社
本町四丁目（電話一七三番）野口商會
仁川代理店　春日町（電話二四七番）田口回漕部
元山代理店
京城取次店　南大門（電話二六八・二〇一七）河村運送店